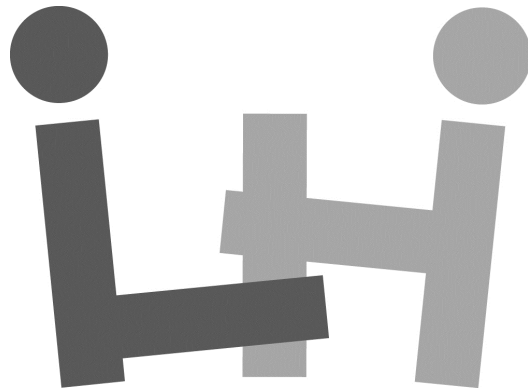


平成 26 年度

事業報告書



社会福祉法人 名古屋ライトハウス

平成26年度 事業報告書 目次

法人本部		1
------	--	---

光和寮 拠点

障害者支援施設	光和寮	5
就労継続支援事業B型		
就労移行支援事業	名古屋東ジョブトレーニングセンター	
生活介護事業		
施設入所支援		
福祉ホーム	かわな・やすだ	12
同行援護・移動支援事業	ガイドネットあいさぽーと	14
地域活動支援事業	デイサービスセンタークリエイト川名	15
相談支援事業	光和障害者相談センター	16

明和寮 拠点

障害福祉サービス事業	明和寮	17
就労継続支援事業B型	ビーサポート	
就労移行支援事業	港ジョブトレーニングセンター	
生活介護事業	ぷちとまと	
福祉ホーム	かわな・やすだ	22
同行援護・重度訪問介護等事業	みなとガイドネット	24
地域活動支援事業	地域活動支援センター あちえつとほーむ	25
放課後等デイサービス	わくわくキッズ	26
相談支援事業	明和障害者相談センター	27
基幹相談支援センター	港区障害者基幹相談支援センター	28
障害者就業・生活支援センター	海部障害者就業・生活支援センター	28

港ワークキャンパス 拠点

障害福祉サービス事業	港ワークキャンパス	30
就労継続支援事業A型	ライトハウス名古屋金属工場	
就労継続支援事業B型	KAN食品開発センター・かんせい工房	
福祉ホーム	みなと	33
相談支援事業	港ワーク障害者相談センター	34

緑風 拠点

就労継続支援事業B型	緑風	35
相談支援事業	りよくふう障害者相談センター	37

戸田川グリーンヴィレッジ 拠点

障害者支援施設	戸田川グリーンヴィレッジ	38
生活介護事業		
施設入所支援		
短期入所事業		
通所生活介護事業	木の香	
相談支援事業	戸田川障害者相談センター	45

名古屋盲人情報文化センター 拠点

視覚障害者情報提供施設	名古屋盲人情報文化センター	46
-------------	---------------	----

瀬古マザー園 拠点

特別養護老人ホーム	瀬古第一マザー園	57
盲養護老人ホーム	瀬古第二マザー園	58
短期入所生活介護事業	瀬古マザー園短期入所生活介護事業所	59
高齢者デイサービス	瀬古マザー園デイサービスセンター	60
	矢田マザー園デイサービスセンター	61
居宅介護支援事業	瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所	62
ふれあいセンター	瀬古平成会館	62

平成26年度 事業報告

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

I 法人本部

第1期3ヶ年計画の最終年となった本年。その取り組みを総括すると共に、次期3年間の第2期3ヶ年計画を法人全体で作成、取りまとめた。

今年度の新たな事業としては、戸田川グリーンヴィレッジの通所生活介護（通称：木の香、定員10名）の開設、「NPO法人まちかどサポートセンター」との共同運営による港区障害者基幹相談支援センターの開設（名古屋市の委託事業）があった。

人材育成においては、昨年度の新しい給与体系に連動した人事考課制度の運用を開始し、法人が求める職員像や施設や職種に求められる職務を明確化し、職員の目指すベクトルを示すと共に、人事考課の公平性、納得性を高めた。また年度末には、この人事考課と連動した昇格、昇進の仕組みの運用も始めた。併せて、法人全体の研修体系の整理、構築にも着手した。

今年度から新会計基準へと移行。これを契機に税理士事務所とも契約し、随時経理処理の確認を受けることにより、その適切性は向上したと思われる。併せてクラウドを使用した新しいシステムも導入。リアルタイムで全拠点の経理処理状況が把握できるようになった。

課題となっている老朽化した建物の修繕、建て替えの課題に対応すべく、1年間で生み出された収益を法人として集め、建設資金として積み立てる取り組みを始めた。併せて中長期の施設建替計画の作成が求められている。

平成28年には法人創立70周年が迫っているため、記念事業委員会を発足、その企画の検討を開始した。

今後も、更に「法人」としての取り組みに期待されるものは大きく、それに応えられるよう尽力したい。

1 経営実施状況

(1) 諸会議

ア 理事会の開催状況 (計3回)

平成26年5月21日(水) 午後3時35分	
議案	第1号議案 平成25年度事業報告・決算(案)について 第2号議案 理事長の互選について 第3号議案 評議員の選任について 第4号議案 名古屋盲人情報文化センタートイレ改修工事業者について

主な発言	・社会貢献活動については、一法人でできること、他法人との共同でできることがある。既に取り組んでいることもあるが、今後も積極的に取り組んでいきたい。理事の皆さんにもご参加、ご意見をいただきたい。
平成 26 年 11 月 25 日 (火) 午後 4 時 00 分	
議案	第 1 号議案 上半期事業報告・中間決算(案)について 第 2 号議案 第一次補正予算(案)について 第 3 号議案 積立金の取り崩しについて (瀬古マザー園) 第 4 号議案 各種規程の変更について
平成 27 年 3 月 27 日 (金) 午後 4 時 00 分	
議案	第 1 号議案 第二次補正予算 (案) について 第 2 号議案 第 1 期 3 ヶ年計画の総括と第 2 期 3 ヶ年計画について 第 3 号議案 平成 27 年度事業計画・収支予算 (案) について 第 4 号議案 各種規程の改訂について 第 5 号議案 光和寮の土地の取得について

イ 評議員会の開催状況 (計 3 回)

開催年月日	議 題
平成 26 年 5 月 21 日 (水) 午後 1 時 45 分	第 1 号議案 平成 25 年度事業報告・決算(案)について 第 2 号議案 役員を選任について
平成 26 年 11 月 25 日 (火) 午後 1 時 45 分	第 1 号議案 上半期事業報告・中間決算(案)について 第 2 号議案 第一次補正予算(案)について 第 3 号議案 各種規程の変更について
平成 27 年 3 月 27 日 (金) 午後 1 時 45 分	第 1 号議案 第二次補正予算 (案) について 第 2 号議案 第 1 期 3 ヶ年計画の総括と第 2 期 3 ヶ年計画について 第 3 号議案 平成 27 年度事業計画・収支予算 (案) について 第 4 号議案 各種規程の改訂について

ウ 部長会 (施設長会) の開催状況 (計 12 回)

開催年月日	議 題
平成 26 年 4 月 22 日 (火)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 5/21 理事会・評議員会について 新年度の給与の変更点等について
平成 26 年 5 月 19 日 (月)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 決算監事監査についての報告 新しい人事考課制度について

平成 26 年 6 月 24 日 (火)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 継続雇用者の賃金等について 人事考課及び夏季賞与について
平成 26 年 7 月 23 日 (水)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 昇給・昇格・昇進等について 継続雇用者の賃金等について
平成 26 年 8 月 20 日 (水)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 夏季人事考課（新システム）の結果について 戸田川グリーンヴィレッジ第三者評価の受審について
平成 26 年 9 月 24 日 (水)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 法人パンフレットについて 中間決算等について
平成 26 年 10 月 21 日 (火)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 新卒者採用に関する各拠点での取り組み状況について 監事による臨時の監査について
平成 26 年 11 月 19 日 (水)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 理事会、評議員会について 冬季人事考課及び冬季賞与について
平成 26 年 12 月 19 日 (木)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 3ヶ年計画について 昇格、昇進等の仕組みについて 創立 70 周年記念事業について
平成 27 年 1 月 23 日 (金)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 人材育成・人材確保に向けた取り組みについて 建設目的の法人としての積立金について
平成 27 年 2 月 23 日 (月)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 昇格・昇進について 報酬改定への対応について グローイング・アカデミーについて
平成 27 年 3 月 19 日 (木)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 施設整備目的の積立（本部への繰り入れ）について 平成 27 年度年間スケジュールについて

(2) 登記事項

法人 平成 25 年度 資産変更登記

平成 26 年 5 月 29 日登記

光和寮 福祉医療機構 抵当権抹消登記

平成 27 年 1 月 26 日登記

(3) その他事業

ア 愛盲報恩会事業

- ・助成事業 25 団体・部会・事業等 1,410,000 円
- ・第9回 近藤正秋賞、片岡好亀賞、地域活動特別賞贈呈式
名古屋盲人情報文化センターにて 平成 26 年 11 月 2 日

イ 国兼基金事業

- 物故者慰霊祭 平成 26 年 10 月 18 日

ウ 補正予算

- ・第一次補正 平成 26 年 11 月 25 日 理事会・評議員会承認
- ・第二次補正 平成 27 年 3 月 27 日 理事会・評議員会承認

エ 職員研修

若手施設長・課長対象研修

14 名 平成 26 年 1 月 30 日～9 月 30 日 7 日間

法人基礎研修 37 名 平成 26 年 4 月 8 日・10 月 8 日

職員全体研修（会場 名古屋国際会議場） 198 名

企画テーマ「公益的取り組みについて」平成 27 年 3 月 7 日

2 助成・寄付に関する特記事項（順不同）

(1) 助成に関する特記事項

P S M協力会	明和寮	設備整備	470,000 円
立川福祉基金	名古屋盲人情報文化センター	設備整備	607,000 円

(2) 寄付に関する特記事項（順不同）

鈴木 孝之 様	100,000 円	(戸田川グリーンヴィレッジ)
若山 登 様	200,000 円	(戸田川グリーンヴィレッジ)
坂文種報徳会 様	500,000 円	(本部)
故 松井 伸子 様	300,000 円	(国兼基金)
藤澤 加代子 様	100,000 円	(戸田川グリーンヴィレッジ)
中島 真太郎 様	100,000 円	(国兼基金)
名古屋眼鏡株式会社 様	107,815 円	(名古屋盲人情報文化センター)
小林 奈美 様	300,000 円	(国兼基金)
藤澤 加代子 様	100,000 円	(戸田川グリーンヴィレッジ)
中島 留宇子 様	100,000 円	(明和寮)

II 光和寮 拠点

障害者支援施設	『光和寮』
就労継続支援事業 B 型	
就労移行支援事業	名古屋東ジョブトレーニングセンター
生活介護事業	
施設入所支援	
福祉ホーム	『かわな』・『やすだ』
同行援護・移動支援事業	『ガイドネットあいさぽーと』
地域活動支援事業	『デイサービスセンタークリエイト川名』
相談支援事業	『光和障害者相談センター』

本年度、光和寮拠点における各事業の利用稼働率は、入所支援事業を除き目標とした 80%を越えることができた。ガイドネットあいさぽーとは月平均 350 時間を越え目標を大きく上回り、光和障害者相談センターの利用契約者数も 460 名にのぼり、名古屋市における相談支援実績に大きく貢献している。就労継続事業印刷科の品質の向上と生産工程の改善、入所支援事業の稼働率アップと空室の有効利用、看護師が安定的に配置できなかったことなど課題も残ったが、全体としてプラスの収支とすることができた。

実習や見学依頼は 100%受入れることができた。職員企画、寮友会行事、親和会行事などの企画の実行、夏祭りや地域フェスティバルなど地域向け行事の開催、町内会公園清掃や自転車整理活動などへの継続的参加、自立支援協議会などの地域における福祉ネットワークへの参画など、利用者の QOL 向上と地域との繋がりを大切に事業を行うことができた。

拠点内における体系的な職員育成計画の構築までには至らなかったが、各事業における専門的課題を明確にしつつ、外部講師を招いての精神障害、発達障害の研修会、就労事業工賃アップ研修などを実施した。

引き続き各事業の活性化を図り、一人ひとりの利用者支援を充実向上させ、地域における包括的な障害者支援体制の中核となるよう努めていく。

1 障害者支援施設 『光和寮』

(1) 就労継続支援事業 B 型

本年度は、新たな仕事の開拓や利用者の働きやすい作業環境づくりを進めた。

部品加工科は、前年比 113%と売上を伸ばすことができた。要因としては、新規取引先が 2 件増えたことが大きく、取引先が求めていた作業量や品質などニーズにこたえたことが売り上げアップに繋がった。また、仕事量の増加や利用者の増加を見込み、パート職員を増員し体制を整えた。

新規利用者については、技能開発センターにて利用者のニーズを捉え、利用者増に

繋げることができた。

印刷科では、印刷単価の低下による売上減と、業界全体の総量減少の懸念もある中、今年度一定の受注を獲得できたのは、付加価値提案による相乗効果によるところが大きい。また、ARコードと印刷物や特殊印刷との合わせ技でのコンテンツは、当初、軌道に乗らなかったが、アビリンピックにおいて実績を作ることができた。品質の向上とチェック体制を強化するため、生産工程の改善に取り組んでいる。

録音の反訳業務については、大学から研究報告書作成など印刷を合わせた業務を受注することができ、また新たな顧客を増やすことができた。

治療部は課題である新規顧客の開拓において、地下鉄吹上駅のコルコース南北2箇所を設置されている案内板に写真と地図を掲載した。顧客の定着においては市販の顧客管理用のデータベースソフトを導入し顧客管理の充実をおこなった。また、治療中の事故対応や治療師の技術力向上のため、鍼灸の資格を持った職員の獲得に動いたが成果には至らなかった。しかし治療師同士がお互いにマッサージを施術したり、受けたりして評価しあい、その補完ができるように工夫をした。

ア 工賃支払状況 在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者(人)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成 24 年度 計	53	24	77	平成 24 年度 平均		40,723
平成 25 年度 計	52	24	76	平成 25 年度 平均		42,467
平成 26 年度 計	51	27	78	平成 26 年度 平均		39,076
鍼灸治療科	6	5	11	215,495	76,157	110,501
印刷科	6	6	12	103,824	17,136	48,006
部品加工科	39	16	55	69,174	13,230	13,802

イ 就労事業 (生産物等) の状況 (概要)

印刷科	冊子製本 年間 101 件 封筒印刷 年間 213 箱 名刺印刷 年間 1,109 箱 録音速記 年間 136 件
治療部	年間の来院数 4,832 人 年間の新規来院数 155 名 1 顧客あたりの平均単価 3,460 円
部品加工科	マーカー本体、先端部分の組付け作業 3,328,558 個 パイプ洗浄剤検品作業 48,000 個 ギフトセット組み作業 65,477 セット アメニティグッズセットアップ作業 39,000 個 キッチン取手インサート作業 57,061 個 壁掛 TV 金具検品作業 2,548 個

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 24 年度	5	5	77	80
平成 25 年度	11	12	76	
平成 26 年度	6	4	78	

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24 年度	33	32	1	17	1	0	77(7)
H25 年度	33	30	1	18	1	0	76(7)
H26 年度	33	30	1	19	2	0	78(7)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H24 年度	22	3	21	23	7	1	0	77
H25 年度	21	2	22	24	6	1	0	76
H26 年度	22	3	19	27	6	1	0	78

カ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H24 年度	1	13	13	12	25	13	77	43.2 歳
H25 年度	3	7	14	16	18	18	76	46.8 歳
H26 年度	1	8	15	15	23	16	78	47.1 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
80	H24 年度	254	17,878	70.3	87.9%
	H25 年度	254	18,159	71.5	89.4%
	H26 年度	254	18,220	71.7	89.6%

(2) 就労移行支援事業 「名古屋東ジョブトレーニングセンター」

前年度の大きな課題であった利用率については、目標の 80%を上回る 90%の利用率となり、前年度の 56%を大きく上回った。これはニーズを探りながら、在学生の実習リピーターを増やし、新規利用につなげる体制づくりと、訓練・支援内容の充実を図る等、継続的に行ってきた結果と言える。また、見学会を開催し、訓練体験や相談コーナーを設ける等して、多くの方に周知できたことは、次年度の新卒・新規利用者の確保にもつながっている。

就職者は8名で二桁には届かなかったが、他機関との連携で就職につながったケースもある等、今後も他機関とのつながりを積極的に持ちながら、職場開拓も行っていきたい。

また、本年度からの取り組みとして、生活力の向上と経験値を高めるために月1回の調理実習を実施し、就労意欲の向上のために清掃以外の受注作業も導入した。多様化する利用者に合わせた様々な就職準備訓練や生活訓練に取り組んできたが、次年度以降も、さらに利用者の多様化、重度化が予想されるため、訓練体制の見直しや業務内容のスリム化、職員のスキルアップを図っていきたい。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	※アセス利用	期末在籍者	定員
平成24年度	12	17	—	14	18
平成25年度	14	14	2	14	
平成26年度	14	14	8	14	

※B型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定（短期利用）

イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
H24年度	9	3	4	1	17
H25年度	9	1	2	2	14
H26年度	8	1	4	1	14

ウ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	0	0	0	12	2	0	14
H25年度	0	0	0	13	2	0	14(1)
H26年度	0	1	1	13	1	0	14(2)

() 内は重複障害再掲

エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H24年度	14	0	0	0	0	0	0	14
H25年度	8	0	4	2	0	0	0	14
H26年度	7	0	3	4	0	0	0	14

オ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	4	6	3	1	1	0	14	25.5
H25年度	8	5	1	0	0	0	14	20.8
H26年度	9	4	1	0	0	0	14	21.6

カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
18	H24年度	254	3,897	15.2	84%
	H25年度	254	2,602	10.2	56%
	H26年度	254	4,125	16.2	90%

(3) 生活介護事業

本年度の取り組みとして、利用者が将来ステップアップできる形を作るために作業を行い作業代の支払いを行ってきた。これが功を奏してか、平均利用率が昨年度の75.6%から、今年度は82.9%と、少しずつではあるが向上してきている。

次年度は、サービス提供時間の変更を行うとともに、障害特性に応じた活動も充実させ、利用者の確保にも繋げていく。また職員の資質向上を目指していく。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成24年度	3	3	26	20
平成25年度	4	4	26	
平成26年度	1	3	24	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	10	8	13	7	1	0	26(13)
H25年度	10	13	4	8	1	0	26(10)
H26年度	6	11	5	9	0	0	24(7)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H24年度	0	0	4	7	6	2	7	26
H25年度	0	0	4	5	5	5	7	26
H26年度	0	0	4	5	4	2	9	24

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	1	7	1	2	7	8	26	46.0歳
H25年度	2	6	2	2	9	5	26	47.9歳
H26年度	2	7	1	2	6	6	24	42.5歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
20	H24年度	240	3,481	14.5	72.5%
	H25年度	236	3,573	15.1	75.6%
	H26年度	236	3,916	16.6	82.9%

カ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	162名
音楽講師	76名
マッサージ	12名

(4) 施設入所支援

①生活支援

本年度は利用者の個別状況や安全と安心感を最優先とする支援に取り組み、居室内の環境整備、社会資源の情報提供を行った。エアコン交換（7部屋）、ボイラー修理、蛍光灯交換、ポンプ交換、公衆電話の撤去と新機種への交換、居室ドアの修理を実施した。

退所者はホームやすだへの移行が1名、病気療養にて実家に戻られた1名の計2名であった。入所者は2名で、就労継続支援事業B型を利用されている。施設体験利用者は3名受入れ、内2名が新規利用契約へと繋がったが、目標とした定員枠80%の利用稼働率に対しては、結果72%の稼働率であった。

また、地域、福祉ホームへの移行希望も聞き取り、自立に向けた相談を行うと共に、買い物・花見・カラオケ・ボーリング・映画鑑賞（DVD音声ガイド）等の催し物を企画実施してQOLの向上を図った。

②給食及び栄養指導について

本年度も、豪華な食材を使用した「特別メニュー」と季節感を味わっていただくため、旬の食材を使用した「行事食」を提供した。

栄養マネジメントでは、食事指導だけではなく、運動指導も行い利用者の健康状態の維持・向上に努めた。

新たな試みとして、誕生日のリクエストメニューを提供し、誕生日は自分の好きなメニューを食べられることとなり、好評であった。来年度も継続し、食の楽しさを味わっていただく。

地域の生活に向けて、施設入所から福祉ホームかわなの体験者に買い物と調理実習を行い、より実践的な食事指導を行った。

③防災と安全確保について

本年度も、利用者が自ら缶詰やレトルト食品の開封体験や職員中心の炊き出し訓練を行い、多くの職員が参加して実践的な訓練を行った。

また、避難訓練については、避難用滑り台の体験、消火器を使用するの消火訓練を行った。

④地域生活移行推進に向けて

地域移行に必要な情報提供を行い、高齢化に伴い他施設へ移行した利用者が1名、福祉ホームやすだへ移行した利用者が1名であった。また、盲養護老人ホーム「瀬古マザー園」の説明会、ヘルパーの情報や相談、福祉ホームかわなでの体験を実施した。次年度も引き続き必要な情報を提供し、利用者支援を行う。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 24 年度	1	2	21	32
平成 25 年度	2	0	23	
平成 26 年度	2	2	23	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24 年度	11	8	1	4	0	0	21(3)
H25 年度	11	9	1	6	1	0	23(5)
H26 年度	10	8	1	8	1	0	23(5)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H24 年度	0	1	5	12	3	0	0	21
H25 年度	0	1	7	12	2	1	0	23
H26 年度	0	1	7	12	2	1	0	23

エ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H24 年度	0	3	2	4	11	1	21	48.0 歳
H25 年度	0	2	3	6	10	2	23	48.4 歳
H26 年度	0	1	2	6	10	4	23	51.0 歳

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
夏まつり	25名
地域交流フェスティバル	57名
メイクサロン	3名
メガネ メンテナンス	2名
新年鍋パーティー	5名

2 福祉ホーム『かわな』『やすだ』

(1) かわな

本年度の退所者は高齢者住宅への入居が1名、住宅型老人ホームへの入居が1名の計2名であった。新規入居者は、肢体障害の方が1名、高齢の視覚障害の方が1名の計2名であった。

退所者は両名とも重度の障害者で、福祉ホームでは対応できない状況であり、地域移行とはならなかった。市営住宅と県営住宅の申し込みは継続して行っているが、入居者が希望される地域は競争率が高く、公営住宅への転居は厳しい状況である。一般住宅も家賃以外の問題として、バリアフリー対応の居室が少なく、手摺や段差解消の設置が必要となり、所有者の理解が得にくい現状である。

設備面では給湯器の交換を中心に行い、集会室のエアコン交換を行った。また、居室においては、畳替え時期に床をフローリングにして、ベッド利用者にも配慮した改装を行った。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成24年度	1	3	12	15
平成25年度	1	2	11	
平成26年度	2	2	11	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	3	8	1	0	0	0	12
H25年度	2	8	1	0	0	0	11
H26年度	3	7	1	0	0	0	11

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H24年度	9	0	1	1	1	0	0	12
H25年度	8	0	1	0	1	1	0	11
H26年度	8	0	1	1	1	0	0	11

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	0	0	0	3	3	6	12	58.2歳
H25年度	0	0	0	1	3	7	11	59.6歳
H26年度	0	0	0	0	4	7	11	61.6歳

(2) やすだ

本年度の入・退所者は、いずれも1名であった。加齢により盲養護施設に1名が転所した。転所後の同室には以前から車いす利用の入所者より福祉ホームに移行したい旨を表明していた利用者が入居した。ヘルパー利用は、昨年同様6名だが利用頻度は増えており、うまく活用できている。

利用者の高齢化が進んでおり、高齢者施設の職員が説明会を行う機会を設けて対象者に参加を促した。

設備面では、故障したエアコンを随時交換し、蛍光灯設備の交換を行った。また、非喫煙者が多い中で室内は禁煙であるが、廊下の喫煙場所を変更して、換気扇の真下に移動し、建屋内の環境に配慮した取り組みを行った。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成24年度	0	1	10	11
平成25年度	0	0	10	
平成26年度	1	1	10	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	4	6	0	0	0	0	10
H25年度	4	6	0	0	0	0	10
H26年度	3	7	0	0	0	0	10

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H24年度	0	1	4	4	1	0	0	10
H25年度	1	0	4	4	1	0	0	10
H26年度	1	0	3	4	2	0	0	10

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	0	2	2	0	2	4	10	48.0歳
H25年度	0	1	2	1	2	4	10	49.0歳
H26年度	0	1	3	1	2	3	10	46.3歳

3 同行援護・移動支援事業 『ガイドネットあいさぽーと』

本年度は、新規ヘルパー9名の確保ができた。年度の中旬より、既存の利用者からの定期活動・余暇活動の依頼が増えたため、全体の活動時間数が増加した。しかし、活動数の偏りはいまだ大きいため、活動調整が難しい曜日がある。

次年度においてもヘルパーの確保に努め、利用者の急な活動依頼や新規の依頼など、利用者のニーズに対応できる体制づくりをしていく。

ア 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	58	2	0	5	1	1	60(7)
H25年度	52	0	0	5	1	0	54(4)
H26年度	49	0	0	5	0	0	50(4)

() 内は重複障害再掲

イ 障害程度区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H24年度	4	8	27	18	2	1	0	60
H25年度	5	7	24	16	1	1	0	54
H26年度	3	5	16	23	2	1	0	50

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	2	2	4	6	3	43	60	68.5歳
H25年度	2	2	3	8	2	37	54	63.7歳
H26年度	2	2	1	8	2	35	50	64.2歳

エ 活動実績時間数

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
移動支援（月平均）	45.0 時間	7.3 時間	17.2 時間
同行援護（月平均）	288.0 時間	298.0 時間	339.3 時間

4 地域活動支援事業 『デイサービスセンター クリエイト川名』

本年度は、昨年度同様に利用率が80%を超える月がほとんどであったが、曜日により利用率の偏りが見られた。新規利用者も利用登録がほぼ定員になり活動部屋のスペースの関係で新規利用の数を増やすことができなかった。

次年度は曜日の偏りを考え利用率を上げるとともに、利用者一人ひとりにきめ細かなサービス提供を目指していく。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 24 年度	2	0	48	19
平成 25 年度	7	3	52	
平成 26 年度	4	2	54	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24 年度	48	0	0	1	0	0	48(1)
H25 年度	51	0	0	1	1	0	52(1)
H26 年度	53	0	0	1	1	0	54(1)

() 内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24 年度	0	2	2	3	7	34	48	62.2 歳
H25 年度	0	2	3	5	7	35	52	61.5 歳
H26 年度	0	2	3	5	7	37	54	63.5 歳

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
19	H24 年度	249	3,629	14.6	76.7%
	H25 年度	246	3,890	15.8	83.2%
	H26 年度	244	3,799	15.6	81.9%

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	192名
外出ボランティア	4名
陶芸	192名
音楽講師	12名
体操講師	36名

5 相談支援事業 『光和障害者相談センター』

開設から3年目ということもあり、当事業所の役割が関係機関などに定着してきており、3月末日には460名の利用契約をいただいている。最近では、困難なケースを相談されることもあり、1件1件のケースを基に相談業務の質の向上を図っている。

更に計画相談を基に、地域移行支援や地域定着支援など地域のニーズを拾い上げ、幅広く対応できる事業所を目指し実践をした。これまで同様、関係機関との協力関係を築き、複数機関で個々のケースの課題が解決できるような仕組みを作っていきたい。

ア 計画相談状況

	新規契約件数	利用計画作成	モニタリング
H24年度	258	193	162
H25年度	156	367	609
H26年度	122	437	670

Ⅲ 明和寮 拠点

障害福祉サービス事業	『明和寮』
就労継続支援事業B型	ビーサポート
就労移行支援事業	港ジョブトレーニングセンター
生活介護事業	ぷちとまと
福祉ホーム	『あかり』・『黎明荘』
同行援護・重度訪問介護等事業	『みなとガイドネット』
地域活動支援事業	『地域活動支援センター あちえっとほーむ』
放課後等デイサービス	『わくわくキッズ』
相談支援事業	『明和障害者相談センター』
基幹相談支援センター	『港区障害者基幹相談支援センター』
障害者就業・生活支援センター	『海部障害者就業・生活支援センター』

本年度、明和寮拠点においては、就労継続支援事業B型の利用率の改善、放課後等デイサービス・生活介護事業・就労移行支援事業の好調持続等、全体としてほぼ順調に推移した。また、「特定非営利活動法人まちかどサポートセンター」と共同運営を開始した基幹相談支援センターや相談員を増員し強化を図った明和寮の相談支援事業も活発な活動となった。

活動スペースが限界に近い放課後等デイサービスの事業展開について具体的な計画づくりに着手したが、次年度中の実現に向けて活動していく。

施設整備については、作業棟エアコンの更新、訓練室の改修、ごみ置き場外構工事、車両通行感知システム設置、拠点のサーバー設置、PSM 協力会の助成による畳ベットの設置等を実施した。建物の屋根・壁面の傷みが目立ってきているため、活動スペースの課題を含めた改修計画づくりに取り組んでいく。

1 障害福祉サービス事業 『明和寮』（多機能型）

（1）就労継続支援事業B型 「ビーサポート」

本年度は、工賃向上のための売り上げ確保と共に、利用者が安心・安全に作業を行うための環境改善にも力を注いだ。建物の老朽化による雨漏りなどへの修繕対応、落下の恐れのある天井網の撤去、空調機の更新、車両通行感知システムの設置など、利用者からの声に迅速に対応して、改善を進めた。

部署ごとでみると、印刷科は売上面において問題なく推移したものの、内製量が減少。それに伴い利用者への作業提供が少なくなったことから、他部署や他施設から軽作業を確保して提供することが多かった。組立加工科は、課題としていたブラザーとの取引を終了するという大きな動きを取った。障がいの重度化や高齢化などの理由により当該作業に従事できる利用者が減少、これに対応するためには必須の動きであった。その分、予定しているアイテムの増産が見込まれており、さまざまな意味で安定

する目論見である。自動車部品科は一部のアイテムの終了に伴い、売上が減少。しかし、外注先の協力もあり、収支としてはプラスで終わることができた。包装加工科は機器の老朽化が進んでおり、各所メンテナンスの必要性が出てきている。社会貢献科は自販機事業以外に愛知県 SELP より委託を受けている「金山即売会」の管理業務を始め、売り上げの確保と合わせて、外部とのネットワーク構築にもつながっている。

障がい特性上、集団環境において作業提供時にメンタル的に不安定になる利用者が増えてきており、このような障がい特性がある方の支援体制を構築していくことが急務である。

また、A型・一般企業へステップアップした人数も過去最高であるにもかかわらず、利用率が前年度に比べ4%増となり、「集めるから集まる」に少しずつではあるが近づいていると実感している。

ア 工賃支払状況 在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者(人)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成 24 年度 計	82	20	102	平成 24 年度 平均		47,543
平成 25 年度 計	85	22	107	平成 25 年度 平均		49,497
平成 26 年度 計	81	25	106	平成 26 年度 平均		52,814
印刷事業	6	3	9	124,653	28,335	67,186
組立事業	24	6	30	90,018	21,422	45,596
自動車部品事業	36	14	50	76,036	20,075	46,881
包装加工事業	14	1	15	119,441	43,920	75,928
社会貢献事業	1	1	2	110,566	23,867	67,216

イ 就労事業 (生産物等) の状況 (概要)

印刷科	冊子、チラシ、封筒、名刺など編集・印刷作業 8,810,894 部 Paper chips のカッティング・梱包作業 102,573 個
組立加工科	テープカセットブリスター圧着作業 120,900 個 キッチン取手インサートナット加工及び組付け 171,079 個 スプリングプレート検査 2,136,741 個
自動車部品科	ケースフィルター組付け 1,686,882 個 クーラントシール貼り、梱包作業 278,569 個 点火プラグマスキング作業 3,102,221 個 フロントグリルのエンブレムなど組付け作業 32,388 個 ドアミラーマスキング作業 139,310 個 ガス給湯器内ヒータのバネ付け作業 802,185 セット マイ箸セットアップなど関連作業 306,640 個

包装加工科	プラスチック真空成型加工のみ 真空成型加工及びスライドブリスター（折り曲げ）加工 スライドブリスター（折り曲げ）加工のみ 合計 4,581,400 個
社会貢献科	自販機設置協力事業所 34 社 設置台数 49 台 ブログ更新 41 回

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 24 年度	11	11	102	100
平成 25 年度	9	4	107	
平成 26 年度	9	10	106	

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24 年度	16	64	0	26	14	0	102(18)
H25 年度	19	63	0	32	11	0	107(18)
H26 年度	19	57	0	35	12	0	106(17)

（ ）内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H24 年度	28	2	29	30	11	2	0	102
H25 年度	29	4	26	34	9	4	1	107
H26 年度	32	4	24	32	9	4	1	106

カ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H24 年度	3	6	15	23	27	28	102	50.0 歳
H25 年度	6	5	13	26	26	31	107	49.7 歳
H26 年度	5	9	9	28	24	31	106	49.6 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
100	H24 年度	254	22,096	87.0	87.0%
	H25 年度	254	22,479	88.5	88.5%
	H26 年度	253	23,405	92.5	92.5%

ク ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
行事協力	95	ライトハウス福祉まつり、納涼祭 ボランティア協力食事会
頭髪カット	3	
クラブ活動支援	107	詩吟、卓球、将棋、陶芸、切り絵、手芸、スケッチ

(2) 就労移行支援事業 「港ジョブトレーニングセンター」

本年度は定員を3名増やしたが、稼働率・就職実績ともに前年以上の安定した成果を上げることができた。“集まる”という点と事業のベースを作るという点については一定の成果が得られた。さらに魅力的な事業とするために事業所移転と支援者育成を大きな柱として取り組んできた。いずれも単年で成果を上げるには至らなかったが、事業の本質に1歩踏み込んだことで新たな気づきや課題を見出すことができた。

単に就職者を出すだけでなく、プロとして職業生活全体をコーディネートしながら安定的に事業を運営していくことが今後さらに求められる。現場職員が前向きに経験を積んでいくことと、それを可能とする組織・環境づくりに引き続き取り組んでいく必要がある。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	※アセス利用	定 員
平成24年度	16	22	14	—	15
平成25年度	27	15	26	10	(18)
平成26年度	11	17	20	5	※H26.3 変更

※B型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定（短期利用）

イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
H24年度	13	5	3	1	22
H25年度	7	8	0	0	15
H26年度	7	4	2	4	17

ウ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	0	1	1	6	6	0	14
H25年度	0	4	2	18	4	0	26 (2)
H26年度	0	3	1	13	4	0	20 (1)

() 内は重複障害再掲

エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H24年度	12	0	1	1	0	0	0	14
H25年度	23	0	2	1	0	0	0	26
H26年度	18	0	1	1	0	0	0	20

オ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	1	6	6	0	1	0	14	29.4歳
H25年度	4	16	1	3	2	0	26	26.6歳
H26年度	6	12	0	2	0	0	20	22.8歳

カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
18 ※1	H24年度	251	3,472	13.83	92.2%
	H25年度	251	4,003	15.94	104.5% ※2
	H26年度	256	4,931	19.26	107.0%

※1 平成26年3月より定員変更（15名→18名）

※2 年度平均は定員の平均値にて算出（（15名×11ヶ月+18名）／12ヶ月=15.25）

（3）生活介護事業 「ぷちとまと」

本年度は一日の平均利用者数の安定化と、将来の事業拡大に向けたスペース確保や室内環境の整備、業務の効率化を目標に活動してきた。

一日の平均利用者数は、週単位で管理することにより計画目標値内の11.2名に収めることができた。

環境整備についてはPSM協会の助成金により、安全性の向上と衛生面の改善につながる畳ベッドの整備をすることができた。しかし、活動スペースが狭い問題については課題を残したままとなっているため、次年度も検討を続けていく。

業務の改善については、細かい部分でのルール変更や見直しは行ったが業務全体を改善することはできなかった。

今後、事業の拡大に向け、ますます業務の煩雑化・業務量の増加が予想されるため、業務改善を積極的に進め、利用者に寄り添う時間を増やしニーズに応じていきたい。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成24年度	6	0	29	10
平成25年度	1	3	27	
平成26年度	4	2	29	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	3	21	0	13	2	0	29 (10)
H25年度	4	20	0	12	3	0	27 (12)
H26年度	5	21	0	13	2	0	29 (12)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H24年度	0	0	0	6	3	4	16	29
H25年度	0	0	0	4	2	5	16	27
H26年度	0	0	0	4	4	4	17	29

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	0	11	6	3	3	6	29	37.1歳
H25年度	0	11	6	3	1	6	27	38.7歳
H26年度	1	10	5	5	2	6	29	40.5歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
10	H24年度	242	2,451	10.1	101%
	H25年度	242	2,660	10.9	109%
	H26年度	242	2,709	11.2	112%

2 福祉ホーム 『あかり』『黎明荘』

本年度は「みなと」から「あかり」に転居した方が2名、障害の重度化にともない「あかり」から退去した方が3名という動きとなった。長期利用者が多い中で障害の重度化、高齢化が継続した課題となっている。

また、建物の老朽化も大きな課題となっているが、畳部屋については全室畳替えを行ない、一部の居室ではふすまの張り替えも同時に行った。更に「黎明荘」では洋式

トイレの取り替えも実施した。

今後も利用者の利便性や快適性の向上を考え、計画的な機器の更新や美観の回復を図っていく。

(1) あかり

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 24 年度 ※	16	2	39	40
平成 25 年度	0	2	37	
平成 26 年度	2	3	36	

※明和寮施設入所支援から 14 名が移行（平成 24 年度入所者に含む）

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24 年度	8	31	0	7	2	0	39 (9)
H25 年度	8	29	0	7	2	0	37 (9)
H26 年度	8	28	0	7	2	0	36 (9)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H24 年度	2	0	12	17	6	2	0	39
H25 年度	4	1	11	14	3	3	1	37
H26 年度	5	2	11	11	3	3	1	36

エ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H24 年度	0	0	3	8	14	14	39	54.4 歳
H25 年度	0	0	3	8	12	14	37	55.4 歳
H26 年度	0	0	2	9	12	13	36	56.7 歳

(2) 黎明荘

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 24 年度	0	2	4	10
平成 25 年度	1	0	5	
平成 26 年度	0	0	5	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	1	3	0	0	0	0	4
H25年度	1	4	0	0	0	0	5
H26年度	1	4	0	0	0	0	5

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H24年度	0	0	1	1	2	0	0	4
H25年度	0	0	1	1	3	0	0	5
H26年度	0	0	1	1	3	0	0	5

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	0	0	1	1	2	0	4	49.0歳
H25年度	0	0	1	1	3	0	5	50.6歳
H26年度	0	0	0	1	4	0	5	51.6歳

3 同行援護・重度訪問介護等事業 『みなとガイドネット』

昨年に比べ利用時間数の大幅な増減はなく順調に推移した。昨年度常勤ヘルパーを増員し、サービス提供及び管理体制強化を目論んだが一定の効果はあるものの、事務処理等に追われる状況を変えるまでには至らなかった。しかし、緊急受診にはある程度対応できるようになり、利用者の満足度向上につなげることができた。次年度は更に常勤・登録ヘルパーを効率的に活動に入れられるよう日程調整をしていく。

登録ヘルパーの資質向上のための研修会については計画的に実施することができたが、利用者の高齢化・障害の多様化に対応するために内容の充実を図る必要を感じている。また、職員の情報共有については連絡ノートやメールの活用によりかなり改善したため、引き続き確実な連絡を取り合い、安心・安全な活動に努める。

ア 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	24	34	0	2	1	0	61
H25年度	29	32	0	5	1	0	67
H26年度	35	33	0	4	0	0	72

イ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H24年度	7	0	15	16	8	9	6	61
H25年度	6	1	17	20	6	8	9	67
H26年度	8	2	18	20	7	8	9	72

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	2	1	2	10	15	31	61	58.1歳
H25年度	6	1	2	11	15	32	67	55.4歳
H26年度	5	1	6	10	17	33	72	55.4歳

エ 活動実績時間数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
重度訪問介護（月平均）	409.5時間	328.3時間	350.5時間
移動支援（月平均）	70.8時間	59.4時間	46.5時間
居宅介護（月平均）	144.8時間	125.1時間	104.3時間
同行援護（月平均）	520.5時間	526.0時間	536.5時間

4 地域活動支援事業 『地域活動支援センター あちえつとほ一む』

本年度は、利用者ニーズへの対応だけではなく、そのきっかけとなる利用者の日々の活動を観察し、利用者の変化に目を向けることに集中した。その中でどんな「ひろがり」案件が発生していたかを夕礼にて全員で共有し、今後はどうつなげていくかを話し合い、日々の支援につなげることができた。

課題となっている利用希望の声に対応することが厳しい状況については次年度に持ち越した。登録のみになってしまっている利用者等に、今後の継続利用についての意向を確認するなどし、新たな利用を受け入れられるよう進めていきたい。

また、ボランティアの人員・内容強化を目指したが結果を出すことができていない。事業にとって大切な存在であることを再認識し今後も取り組んでいく。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成24年度	7	0	111	19
平成25年度	4	0	115	
平成26年度	3	1	117	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	12	68	6	27	12	0	111(14)
H25年度	14	68	6	26	11	0	115(10)
H26年度	15	66	5	24	7	0	117(10)

() 内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	0	7	23	21	19	41	111	48.3歳
H25年度	0	6	22	21	18	48	115	54.4歳
H26年度	0	5	21	22	19	50	117	55.7歳

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
19	H24年度	263	4,517	17.2	90.6%
	H25年度	263	4,576	17.4	91.7%
	H26年度	265	4,443	16.9	89.2%

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備考
講師	58	音楽、ピアフラワー、点字、太極拳
パソコン	613	
活動	308	
イベント支援	31	福祉祭り、交流フェスタ、外出訓練

5 放課後等デイサービス 『わくわくキッズ』

放課後等デイサービスとして3年目となり小・中・高校生の受け入れも定着し、活動も安定してきた。利用率の分析をする中で昨年度より引き続き、利用日以外のレギュラー利用の案内をご家族に行ない好評を得た。

また本年度は、新たな事業展開について具体的な計画を進める中で、コンサルタントとの勉強会において事業の見直しや方向性の再確認等をできる良い機会にも恵まれた。次年度には、これらを活かし新規事業所開設に向けて積極的に活動していく。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 24 年度	11	4	40	10
平成 25 年度	6	5	41	
平成 26 年度	4	4	41	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	知的	精神	その他	合計
H24 年度	0	17	38	0	0	40 (15)
H25 年度	0	17	39	0	0	41 (15)
H26 年度	0	17	39	0	0	41 (15)

() 内は重複障害再掲

ウ 利用児童の学校別の人数：合計 41 名

港養護	南養護	港楽小	大手小	稲永小	正保小	東築地小	高木小	新中学	中学校
15 名	4 名	5 名	1 名	4 名	2 名	4 名	1 名	2 名	3 名

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
10	H24 年度	251	2,960	11.8	118%
	H25 年度	251	2,885	11.5	115%
	H26 年度	252	2,907	11.5	115%

オ ボランティア・講師活動状況

木曜日	一緒にピアノに合わせて歌う	1 名
金曜日	(講師として) キッドビクス(月 2 回)	1 名
水曜日	(講師として) 音楽療法(月 2 回)	2 名
月 1 回	人形を使って、一緒に歌う	1 名
年間で	ツアー・各月の行事参加	5~10 名

6 相談支援事業 『明和障害者相談センター』

相談センターが立ち上がって 3 年目となり、港区とその近郊を中心に 3 障害(身体、知的、精神)の方、難病の方のサービス等利用計画作成や一般相談を多数実施し、その件数は港区の中で大きな割合を占めている。そのため、本年度は相談員を一名増員して 4 名(1 名兼務)体制へと強化を図った。

活動面では障害児の計画相談が本格的に始まり、ご本人、ご家族の支援に戸惑いながらもスキル習得、関係事業所とのネットワークづくりに努めた 1 年となった。

ア 計画相談状況

	新規契約件数	利用計画作成	モニタリング
H24 年度	149	139	115
H25 年度	136	302	446
H26 年度	120	364	630

7 基幹相談支援センター 『港区障害者基幹相談支援センター』

平成 26 年度は、当法人と NPO 法人まちかどサポートセンターとのコンソーシアム（共同事業体）により「障害者基幹相談支援センター」の運営を名古屋市より受託することとなった。相談事業としては、すべての障害に対応した総合相談窓口、地域活動支援としては、精神障害を持った方の生活リズムを整えたり・日中に気軽に集える交流の場所としての事業を開始した。

今年度の相談内容の傾向としては、精神障害の方の相談が多く、相談内容も不安解消・情緒安定に関する支援が多かった。また、地域移行支援として精神科病院からの退院調整も複数相談があり、他の特定計画相談支援事業所との連携により対応したケースもあった。他には、触法障害者への支援として、保護観察を受けながら地域生活を送れるようにサービス調整を行うなど障害福祉事業所、弁護士や保護司との協力が不可欠なケースへの対応も行っている。今後も区内外を含めて地域支援ネットワークの構築は重要と考え、港区障害者自立支援協議会等を中心に他区や市外の福祉事業者とも連携強化に取り組んでいく。

基幹相談支援センターの業務の一つである地域づくりについては、港区障害者自立支援協議会等の啓発活動を通じて、地域住民、家族会、教育関係者への福祉制度に関する説明を 15 回開催することができた。

今後も障害福祉の中核的な役割を担えるように、関係機関との連携や地域の方への啓発活動を通じて誰もが暮らしやすい地域づくりを行っていく。

ア 相談実績件数

	訪問相談支援	外来相談支援	自立支援協議会	実績合計数
H24 年度	815 (12)	2,169 (2)	30	2,984 (14)
H25 年度	837 (12)	1,934 (1)	31	2,771 (13)
H26 年度	844 (12)	2,252 (2)	41	3,096 (14)

※（ ）内は視覚ピアカウンセラーによる支援を再掲（ピアフラワー講座含む）

※外来相談支援には電話・電子メール等も含む。なお記載は 10 分以上の相談をカウント。

8 障害者就業・生活支援センター事業

『海部障害者就業・生活支援センター』

今年度は労働局から就業支援担当者（定着支援担当）の加配指示を受け、11 月に

配置を完了した。現在、4名のコーディネーターにより支援を行い、対象者は368名となった。

例年、支援における目標値を設定しているが、相談及び支援件数や新規登録者数などは、前年度増を見越して設定しているにもかかわらず、その数値を大きく超える結果となっている。対象者の障害特性は複雑化し、相談内容も生活面含め多岐にわたり複雑さを増したものが多くなっている。

一方、企業からの問合せも昨年に続き増加傾向。マッチングの問題もあり、就業まで至っていない案件もあるが、これらの求人に対し、当センターの登録者にとどまらず、海部地域の就労支援機関へも情報提供し、連携した支援を進めている。

ア 支援対象障害者に対する相談・支援件数(手段別) (件)

センターへの来所 (本人のほか、家族等も含む)	514
電話・Fax・E-mail (本人、家族等からの電話のほか、センターからの電話も含む)	1,802
職場訪問 (定着支援のほか、職場実習支援を含む)	265
家庭・入所施設への訪問	5
その他 (ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等)	428
合 計	3,014

※「その他」の具体的な支援内容

ハローワークへの同行(登録支援、求人検索、失業保険申請手続き etc)、受給者証手続き、履歴書作成、事業所見学、年金相談、手帳取得、自己破産など
--

イ 支援対象障害者に対する相談・支援件数(内容別) (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他				合計	
				発達障害	難病	高次脳機能障害	その他		
H24年度計	137	691	488	137	1	32	16	1,502	
H25年度計	223	1,013	604	261	36	119	21	2,277	
H26年度計	411	1,005	1,012	322	29	64	171	3,014	
H26年度内訳	就職に向けた相談・支援	325	379	517	107	20	10	111	1,469
	職場定着に向けた相談・支援	57	368	200	136	0	26	5	792
	日常生活、社会生活に関する相談・支援	13	76	92	12	2	9	23	227
	就業と生活の両方にわたる相談・支援	7	93	123	17	5	16	13	274
	その他	9	89	80	50	2	3	19	252

IV 港ワークキャンパス 拠点

障害福祉サービス事業	『港ワークキャンパス』
就労継続支援事業A型	ライトハウス名古屋金属工場
就労継続支援事業B型	KAN食品開発センター、かんせい工房
福祉ホーム	『みなと』
相談支援事業	『港ワーク障害者相談センター』

1 障害福祉サービス事業 『港ワークキャンパス』（多機能型）

(1) 就労継続支援事業A型 「ライトハウス名古屋金属工場」

新規製品の市場投入開始により活性化された一年となった。年度当初は増税前特需の影響などから、既存の大口取引先製品に若干の落ち込みが見えたものの、新規製品はそれを補い余りある結果となった。延長作業等も度々行い、従業員工賃もわずかながら向上することができた。新規製品のさらなる拡販について年度内では結果は得られなかった。

また平成27年度は、新規製品納入先において2社購買が開始されることから、同製品は減産となるため、生産量および利益確保を目指し、ブリキ缶拡販を中心にしつつ、多方面に渡るより一層の営業活動が重要となる。

工場内においては、生産数を増やすためにライン稼働率向上を試みた。上半期は2ライン稼働が80%であったが、下半期には3ライン稼働が80%となる月もあり、生産数の向上が図れた。しかし、まだまだ効率化に向けた取り組みは必要であり、従業員配置の適正化や更なる機械の自動化も必要と、課題は多く残っている。

乾燥蒟蒻加工事業については、約5年に渡った事業であったが、平成27年2月をもって終了。現在は第二工場の新たな活用方法を模索中である。

ア 工賃支払状況 在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者(人)			工賃(年間総支給額÷12)(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成24年度計	60	3	63	平成24年度平均		104,924
平成25年度計	65	4	69	平成25年度平均		106,759
平成26年度計	66	3	69	平成26年度平均		112,704
就労継続A型	66	3	69	174,175	54,437	112,704

イ 就労事業(生産物等)の状況(概要)

金属加工事業	ブリキ缶製造 : 172万3580缶出荷
下請作業	解体作業 ・ セットアップ作業(工業品・食品)

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成24年度	5	7	63	60
平成25年度	8	2	69	
平成26年度	7	7	69	

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	6	27	2	25	3	4	63(4)
H25年度	6	27	2	29	5	4	69(4)
H26年度	8	24	2	29	6	4	69(4)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H24年度	49	6	6	2	0	0	0	63
H25年度	53	6	8	2	0	0	0	69
H26年度	54	6	7	2	0	0	0	69

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	0	9	14	14	19	7	63	43.6歳
H25年度	5	9	15	11	21	8	69	42.1歳
H26年度	3	13	12	14	20	7	69	41.8歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
60	H24年度	254	14,863	58.5	97.5%
	H25年度	254	15,647	61.6	102.7%
	H26年度	254	16,207	63.8	106.3%

(2) 就労継続支援事業B型 「KAN 食品開発センター」「かんせい工房」

国・県・市町村の備える備蓄から、一般企業が社員のために備える備蓄・一時的帰宅困難備蓄への傾向が高まり、防災商社からの受注や直接の問合せなど、市場の広がりを実感する年度となった。

年間成績は、販売数64万缶、売上1億5千万円となった。賞味期限の関係による5年周期の3年目にあたり、年度初めは売行き動向がつかみ難い傾向にあったが、最終的にはほぼ計画に近い数字で終わることができた。また、新製品の開発もカロリー

関係の問題がクリアされれば秋には市場へ投入する予定で進めており、カタログ再編も行い発売する予定である。

新規取引先の開拓は、防災以外へ視野を広げ、みそ味缶・デコポン味缶等地域密着型の缶、米粉を使った農業に関連したOEM缶など、トライできる部分は積極的に取り組んでおり、次年度につなげていく。

「かんせい工房」も2年目を迎え利用者も14名となり、B型全体で39名になり定員近くまで増えてきた。下請け作業も食品・菓子・玩具関係を中心に当初の目標は達成し、今後の利用者獲得・定員増に向けて仕事の幅を広げるために、レトルト機の殺菌性能を利用した加工製品・委託製品・自社製品等を取引会社と検討を進めている。

地域貢献活動の一環として、養護学校等を中心にパン関係の出張作業実習にチャレンジするなど広くワークキャンパスを知っていただく機会を作り、今後の事業拡大につなげていきたい。

ア 工賃支払状況 在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者(人)			工賃(年間総支給額÷12)(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成24年度計	11	12	23	平成24年度平均		52,920
平成25年度計	14	15	29	平成25年度平均		49,350
平成26年度計	13	21	34	平成26年度平均		45,360
KAN食品開発センター	9	14	23	77,238	17,827	49,875
かんせい工房	4	7	11	59,576	13,170	35,490

イ 就労事業(生産物等)の状況(概要)

パンの缶詰製造事業	販売缶数：637,774 缶(内製 615,034 缶、外注仕入 22,840 缶)
下請作業	菓子缶作業：10,068 缶 菓子袋詰め作業 151,200 個(パチンコ景品、自衛隊装備品等) カレーレトルト袋詰め作業：25,028 個 レトルト加工(どて煮等)：4,406 個 コンニャク加工：15,532 個 風船袋詰め作業：18,707 個

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成24年度	4	1	23	40
平成25年度	7	1	29	
平成26年度	8	3	34	

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	4	5	2	11	2	0	23(1)
H25年度	4	5	2	15	3	1	29(1)
H26年度	4	7	1	22	3	1	34(4)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H24年度	11	1	4	3	4	0	0	23
H25年度	15	1	6	3	4	0	0	29
H26年度	15	2	9	4	4	0	0	34

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	2	5	3	5	4	4	23	40.8歳
H25年度	3	7	5	5	5	4	29	36.5歳
H26年度	7	9	3	6	5	4	34	36.6歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
40	H24年度	252	4,636	18.4	46.0%
	H25年度	252	5,999	23.8	59.5%
	H26年度	252	6,854	27.2	68.0%

2 福祉ホーム 『みなと』

各居室でのBS放送の受信環境整備や、雨漏りや水道づまりなどのクレームに対し迅速に対応することにより居住者との信頼関係がより構築され、昨年度から引き続き実施している宅配や届け物などの受け取り代行のサービスも好評である。また、A型従業員が行う階段やトイレの清掃も評価が高く、入居者から「満足している」との声をいただいている。課題は、年度末に空室となった居室の有効利用である。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成24年度	1	2	19	20
平成25年度	1	1	19	
平成26年度	0	2	17	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24年度	4	12	0	2	0	1	19
H25年度	5	13	1	0	0	0	19
H26年度	5	11	1	0	0	0	17

エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H24年度	10	1	5	2	1	0	0	19
H25年度	11	1	3	3	0	1	0	19
H26年度	10	1	2	3	0	1	0	17

オ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H24年度	0	2	4	3	5	5	19	48.2歳
H25年度	1	2	2	3	5	6	19	49.3歳
H26年度	0	3	0	6	6	5	17	49.0歳

3 相談支援事業 『港ワーク障害者相談センター』

事業開始から3年、地域の事業所のサービス管理責任者、介護保険のケアマネジャー、近隣病院や生活保護担当のケースワーカーなど関係機関との情報交換も密になり、連携の取れた支援ができるようになった。

当事業所都合による担当者変更により一部の利用者を困惑させてしまったが、利用者を法人内の相談事業に協力を得て分担し、大きな混乱もなく事業を実施することができた。

また、障害者およびその家族の高齢化、既存サービスでは対応が困難なケースなど、地域と連携しながら解決方法を検討するケースも増えており、自立支援協議会を通じて地域課題を解決するような活動を更に強化していくことが今後の重点課題となっている。

ア 計画相談状況

	新規契約件数	利用計画作成	モニタリング
H24年度	104	72	58
H25年度	68	152	291
H26年度	156	367	609

V 緑風 拠点

就労継続支援事業B型
相談支援事業

『緑風』
『りょくふう障害者相談センター』

平成23年の開設から丸4年が経過した。25年度に定員の増員（20名から40名）を果たしてから着実に利用者数を増やしており、現在では42名の方にご利用いただいている。また利用者の増加とともに収支も安定してきている。

昼食の提供ではクックサーブ式から現地調理式に変更し、従来のメニュー選択とともに品質アップに努めている。

1 就労継続支援事業B型 『緑風』

利用者は順調に増えているが毎日利用される方ばかりではなく、また精神面も含めて体調不良の方が散発するため、一日平均利用者数が30名と思うように伸びなかった。

利用者工賃は売上の増加とともに上昇し、月平均で前年比116%となった。

障害種別は「知的47%」「身体35%」「精神18%」であり、開設当初からの知的・精神の方の増加傾向が更に顕著になっている。新たな流れとして、高齢者の「いきいき支援センター」からの紹介で認知症（精神障害の手帳を取得）の方も2名利用されている。ICFの観点からもできることを活かす取り組みとして、今後も「いきいき支援センター」等との連携を図っていく。

作業では新たに「施設外就労」に取り組んでいる。具体的には利用者3名と職員1名で、近隣の事業所へ週3回、1時間の屋内清掃に出向いている。まだまだ不慣れではあるが、次年度からは先方と業務請負契約を結び、毎日の作業として本格的に取り組を進める。

ア 工賃支払状況

在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者(人)			工賃（年間総支給額÷12）(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成24年度計	25	5	30	19,544	1,219	9,719
平成25年度計	32	5	37	24,664	446	7,657
平成26年度計	37	5	42	25,056	701	8,936

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

軽作業科	下請け作業としての年間生産数 ・くまで組立 18,900 本 ・ほうき組付 36,400 個 （その他清掃用品 6 種類の組付、加工、袋入れ） ・DMチラシ 1,200,000 枚 ・洗濯物畳み 600,000 枚 など 施設外作業（清掃業務） ・年間 54 日
------	--

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 24 年度	14	0	30	20
平成 25 年度	9	2	37	40
平成 26 年度	5	0	42	40

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H24 年度	1	14	0	16	4	0	30(5)
H25 年度	1	17	1	19	7	0	37(8)
H26 年度	1	15	1	22	10	0	42(7)

（ ）内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H24 年度	7	1	12	3	0	0	0	30
H25 年度	12	1	8	11	4	1	0	37
H26 年度	12	1	8	14	6	1	0	42

カ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H24 年度	1	5	7	9	6	2	30	41.1 歳
H25 年度	3	4	9	12	7	2	37	40.8 歳
H26 年度	0	6	13	10	9	4	42	41.6 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
20	H24年度	254	4,649	18.3	91.7%
	H25年度	254		25.5	127.0%
40	※H25年度		254	6727	26.9
	H26年度	254			7,520

※H25年度8月から定員を40名に変更

ク ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
作業支援	325名
レク介助	27名
掃除	116名

2 相談支援事業 『りよくふう障害者相談センター』

千種区基幹支援センターや関係機関と積極的に関わって事業を進めている。相談者の障害種別の割合は「身体 22%」「知的 30%」「精神 48%」と半数近くを精神障害の方が占めている。相談内容も多岐に亘るため相談員のスキルアップと関係機関との密な関係が重要である。

ア 計画相談状況

	新規契約件数	利用計画作成	モニタリング
H24年度	6	4	0
H25年度	58	54	89
H26年度	80	81	111

VI 戸田川グリーンヴィレッジ 拠点

障害者支援施設	『戸田川グリーンヴィレッジ』
生活介護事業	
施設入所支援	
短期入所事業	
通所生活介護事業	木の香
相談支援事業	『戸田川障害者相談センター』

入所者の長期入院や外泊者の影響で入所の稼働率平均は 94.5%にとどまったものの生活介護 99.7%、短期入所 90.0%と好調であった。入所では重症化により 2 名が病院へ、1 名が有料老人ホームへ移行し、比較的自立度の高い 3 名が新たに入所した。

また、サービスの質の向上のため、今年は満足度調査に変えて第三者評価を法人の中でも初受審し、利用者への聴き取りや無記名での家族・職員アンケートなど外部の評価を受けた。結果は愛知県福祉サービス第三者評価推進センターのホームページに公表されている。

女性介護職の採用は、上半期は厳しい状況が続いたが、下半期には新卒採用等内定が 4 名あり、学校とのパイプもでき次年度の介護福祉士実習生受け入れにもつながった。職員への研修では、自身の課題と向き合う力を高めていけるよう自己覚知（自己理解）の研修も取り入れた。

1 障害者支援施設 『戸田川グリーンヴィレッジ』

(1) 生活介護・施設入所支援事業

人権意識と支援力向上を目指して人権委員会の活動を昨年度末から続けている。6 月から朝の申し送りにて法人理念と戸田川のコンセプトの唱和を行い「何のために働くのか、行動するのか」の職員への意識づけから始め、人権アンケートも行った。更に職員と利用者対象に「あいさつ運動」「ありがとうカード」の投書箱の設置、職員間で良いところを書き合う取り組み等を実施し、差異を認め合い成長し合える組織風土を目指した。

また、身障協全国大会で「あなたらしく私らしくの追求」というテーマで開設から 3 年間の「人権を意識した利用者支援の実践」を発表した。身障協東海北陸大会では 6 か月の短期入所利用で在宅復帰にシフトした利用者のエンパワメント支援経過を報告した。

利用者のゆとりある入浴と職員の移乗回数の軽減と介助姿勢の保持を目指して寝浴のストレッチャーを 1 台追加購入し計 3 台で介助するようにした。また、リフター使用の推進とより安全に移乗できるよう個別に研修を行った。

通常の外出より規模の大きい多職種連携での日帰り旅行開催に向け、次年度の年間実施計画と 3 か年計画の策定を完了し、次年度から実施予定である。

また、防災時の職員連絡体制整備を進め、地域自立支援協議会や法人全体での防災の仕組みづくりをけん引した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 24 年度	1	1	40	40/日
平成 25 年度	1	1	40	
平成 26 年度	3	3	40	

イ 障害別状況（年度末時点）（ ）内は重複障害再掲

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
脳性まひ	22	22(16)	23(15)
脳障害後遺症	4	4(1)	4(2)
頸髄損傷	3	3	2
二分脊椎	1	1(1)	1(1)
化膿性脊髄炎	1	1(1)	1(1)
視覚障害	2	2(2)	2(2)
リウマチ	1	1	1
筋ジストロフィー	1	2	2
ハンチントン病	1	1	1(1)
パーキンソン症候群	2	1(1)	1
多発性硬化症	1	1	1
脊髄小脳変性症	1	1	1(1)
知的障害	22	21	22
精神障害	1	1	1
合 計	40(23)	40(22)	40(23)

*最も顕著な障害で分類

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H24 年度	0	0	0	1	2	5	32	40
H25 年度	0	0	0	1	1	5	33	40
H26 年度	0	0	0	0	4	5	31	40

エ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H24 年度	0	2	3	12	16	7	40	49.8 歳
H25 年度	0	2	2	11	16	9	40	51.3 歳
H26 年度	0	1	3	9	16	11	40	51.9 歳

オ 生活介護 利用状況（短期入所利用者の日中利用含む）

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
40	H24年度	312	12,024	38.5	96.3%
	H25年度	313	12,613	40.3	100.7%
	H26年度	310	12,355	39.9	99.7%

カ 施設入所支援 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
40	H24年度	365	14,083	38.6	96.5%
	H25年度	365	14,095	38.6	96.5%
	H26年度	365	13,794	37.8	94.5%

キ ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延人数
パソコン講座	48回	2名	48名
組紐	26回	6名	104名
除草・剪定	3回	1名	3名
歌謡舞踊	1回	2名	2名
裁縫	13回	1名	13名
ポッチャ	7回	1名	7名
イベント食	2回	14名	14名
琴演奏	1回	3名	3名
サマボラ	9回	4名	18名
そば打ち	1回	4名	4名
生活支援ボラ	2回	1名	2名
秋祭り	1回	32名	32名
合計	114回	71名	250名

(2) 短期入所事業

新規の短期入所・体験通所の利用が増加し、地域ニーズが高い事業であることを改めて実感させられた一年となった。加えて、以前から短期入所を利用している利用者の、今まで出てこなかったニーズが顕在化することも多く、より支援の個別性が増した一年にもなった。介護者等の事情による2週間～1ヶ月の長期的な利用の受け入れも何件か行った。今後も短期入所の利用が増加していくと予想される。より多くの、個別のニーズに応じていくために、受け入れや支援体制や仕組みを見直していく。

ア 短期入所及び通所利用状況

	利用人数	延べ利用者数	1日平均利用者数	利用率	通所利用人数	通所利用延べ日数
H24年度	520	2,135	5.8	73.1%	59	89
H25年度	629	2,530	6.9	86.6%	113	374
H26年度	682	2,635	7.2	90.0%	59	76

(3) 通所生活介護事業 「木の香」

4月から通所生活介護「木の香」を新規開設した。生活介護（入所）40名と通所生活介護20名としてサービス単位を分け、別事業とする予定だったが、名古屋市との齟齬があり協議を重ね、5月から生活介護50名（内通所10名）で単一のサービス単位への変更を行った。

年度の初めには、開設に向けての改装工事に助成をいただいた清水基金の植田事務局長を招待して手作りの時計と感謝状を手渡し、感謝の会を行った。

年度当初は利用者9名でスタートし、年度中に8名の利用者と契約を結び1名が退所（戸田川グリーンヴィレッジ入所）となった。

室内環境では10月から一部曜日の利用者増加により2フロアを使用する等の対応をした。11月に新たな車両（ハイエース）を導入し送迎利用者の拡大に繋がった。1日送迎人数4.5名。1月に満足度調査を実施し利用者・家族のニーズを把握し、次年度の事業計画への参考とした。

ふれあいをコンセプトに楽しみにつながる『木の香』を目指し、毎日職員ミーティングを実施し、振り返りと利用者情報共有や課題を協議したり、外部のサービス担当者会議にも出席し地域の支援機関との連携にも努めている。

利用希望者の中には「どこの利用にも繋がっていない」「どのサービスも受けていない」ケースもあり、障害特性（精神、知的、医療的ケア等）も多岐にわたっており、更なる関係機関との連携強化、職員の障害理解と支援力向上が課題である。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成26年度	17	1	16	10

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H26年度	2	14	0	13	2	0	16(15)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H26 年度	0	0	0	0	4	2	10	16

エ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H26 年度	0	4	5	6	0	1	16	37.3 歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
10	H26 年度	240	947	3.9	39.0%

(4) 各部門報告

①介護部門

昨年度に続き、生活支援員への権限移譲、職員の資質向上を目標にした取り組みを多く行った。業務、日中活動、入浴の定型化・効率化、介助方法の検討は進み、ある程度利用者に定着してきていると思われる。

職員の資質向上の面では、小グループでの研修を取り入れ、職員の理解度の進捗に合わせた指導ができた。今後も継続した研修を行い、個々人に適した研修制度の仕組みを定着させたい。

ア. 班会議・班長会議の運営方法の検討と統一、班長・副班長の業務範囲の明確化

班長を中心に事前課題を集約して班会議を活性化する工夫を行なったが、班会議からケース検討や班長会議への課題提言までは至っていない。居室環境整備の運営・チェック等を班長・副班長で行い、衛生環境の維持に努めた。毎月のネットスーパーの運営を副班長で分担し行い、定期的な利用に繋がった。

イ. ミニケース検討会議（介護部内）の定期的な実施

関係部署に呼びかけ、ケース検討会議を適宜行い、支援方針の統一、方向性の検討を図ることができた。年間 32 件実施。

ウ. 各種外出活動の統合により効率化・外出回数の公平化

外出企画の見直しと再検討を行い、利用者に外出についてのアンケートを実施し、外出の調整を回数の公平化につなげた。

外出参加延べ人数 118 名・・・該当する外出（外出企画、花見、初詣、ゴロバレー）

エ. 日中活動を継続して行える内容で計画・実施し準備の効率化および環境整備・利用者支援の充実

参加率や需要の高い日中活動の選別をし、それを中心とした日中活動の予定に組み換え、安定した参加率を維持することができた。特定の活動に参加する利用者の外出・外泊の予定に合わせて活動の予定を変更して対応した。

オ. 各種団体研修参加、施設内での専門研修（年2回以上）の実施や法人内交流研修や近隣福祉施設、愛知県内障害者支援施設での研修の企画・実施

施設内で普通救命講習（2回11名）を実施した。施設間交流研修（ピカリコで3日間）に1名派遣した。

外部講師を招き専門研修を6月（視覚6名）、7月（知的・発達障害21名）の2回行なった。

介護研修を個別研修とし、移乗、リフト操作、危険予想、トロミ剤、ケース記録記入についてを少人数（1～4名）で行い、習熟度の向上を図った（計60名）。

介護福祉士実習指導者研修（1名）、サービス管理責任者講習（1名）に参加した。それ以外に社協等の外部団体の研修には適宜参加（延47名）した。

カ. 入浴・施設行事の協力体制を作り、利用者増加にスムーズに対応していく。

9月よりショートステイの入浴回数の調整を行ない、通所利用者の入浴増加に対応できるように体制を整え、今後の利用者増に備えた。午前入浴を開始したことで行事・外出・外泊・ショートステイ退所者にもスムーズに対応できる体制となった。

②看護部門

ア. 疾病の早期発見

毎月介護職員へ看護研修を実施し、利用者の疾病の早期発見・早期治療に努め、早期に病院受診へ繋げることを意識してきた。

特に今年度は口腔衛生の保持と誤嚥性肺炎の予防を目的として、歯科の治療と口腔ケア、安全な食事をするための研修に力を入れた。

たん吸引や胃瘻等の医療行為については、7月に介護職員向けのたん吸引外部講義の実施、8月に看護職員向けのたん吸引外部講義の実施、12月に介護職員の喀たん吸引等実地研修修了、1月に看護師の喀たん吸引指導者養成伝達講習を修了した。

イ. 看護師間の役割分担、連携

入所支援、通所支援の応援体制についてセラピスト会議で検討し、協力し合うことができている。

今後通所利用者の増加、そして入所者・通所者、さらにはショートステイ利用者の医療行為が必要な方への受け入れ体制なども検討し、更なる協力体制を確立していく必要がある。

③セラピスト部門

利用者の身体機能維持についての取り組みとしては主に個別リハビリ・集団活動（歩行訓練・ストレッチ）を実施、概ね定期的に実施することができ、機能維持に努めた。（対象は入所者 40 名）

利用者に変化があった場合は、居室環境整備（ベッド上ポジショニング等）や自助具の提案や靴の変更、車椅子調整等を行い、利用者が過ごしやすい環境を他部署連携にて行うことにより、生活リハビリや安楽な姿勢での食事や居室ベッドでの生活も継続して可能となった。個別・集団活動と合わせて身体機能維持の一助になったと考えられる。

また、入院で身体機能が低下する利用者に対して、機能低下に合わせた姿勢や介助方法を主に生活支援員と連携し考えた。

音楽活動では、午前の集団活動の他に中規模集団でコーラス活動・嚥下体操を行った。コーラス活動では、歌唱の他 26 年度はハンドベル演奏を実施、施設のクリスマス会にて発表を行った。利用者からは今後もベル練習を続けていきたいと意欲が見られ、現在も継続中。嚥下体操は毎食前時と週に 2 回実施している。嚥下機能が低下している利用者も見られ、今後より嚥下についての関心を持っていただき、嚥下体操の必要性を伝えていきたい。

④給食部門

ア．現在の食形態が利用者にとって最適かの検証

調理時の食材の切り方(大きさ)を随時検討し、厨房職員間で食形態の定義の再確認を行った。また、嗜好調査に「食べやすさ」の項目を取り入れ、利用者個々の意見の聴き取りを行った。

イ．既存の厨房作業マニュアルの見直し、通所事業の発展に対応できる体制づくり
1 日の作業マニュアルの見直しや通所部への給食提供方法の検討を随時行った。
平成 27 年 4 月からの給食配膳方法の変更に備えて物品等の体制を整えた。

⑤事務部門

平成 26 年 4 月より、名古屋市からの障害福祉サービス等報酬の請求ソフトの提供がなくなり、法人で整えた請求ソフトに切替えた。事務作業としては情報の載せ替えなどで大きな労力であったが、報酬請求・利用料請求の面で特に不具合を生じることなくスムーズに移行できた。

在庫管理については、利用者支援・職員業務に影響がないよう、消耗品の在庫の維持に努め、大きな問題は生じなかったが、経費節減・在庫調整の観点から、商品そのものの検討や、消耗頻度などの管理に課題が残った。

⑥喫茶部門

4 月に水素水サーバーを導入し、利用者職員に無償で提供し、便秘改善や健康

増進・福利厚生に寄与した。引き続きショートステイ利用者も気軽に利用してもらえる雰囲気と環境づくりに努めた。

各部署で混雑時（昼食後）の喫茶補助を行ない、利用者がつくろげる環境を整えることができた。利用者個人に適した自助具を作成し、「喫茶を楽しむ」環境も整えることができた。

⑦環境部門

携わる職員それぞれが洗濯や掃除・喫茶業務に柔軟に取り組める体制をめざし新規職員2名も掃除・洗濯業務を行えるようになり、柔軟な勤務を組めるようになった。また、利用者の居室環境の整備も生活支援員と協力して行っている。

2 相談支援事業 『戸田川障害者相談センター』

今年度新規契約数としては、31件。このうち、法人内他相談支援事業所からの移管分が10件あり、実質地域からの相談は21件。相談支援事業の地域への定着が進んでいるためか、新規の相談件数は落ち着きつつある。だが、各利用者と相談支援との信頼関係の深まりから、支給量変更を伴わない日常的な基本相談の増加が非常に顕著となっている。各ケースの内容としては、依然として、被虐待ケースや家族の高齢化を含めた家族関係の課題、不安定な健康状態や障害の進行、介護者の疲弊等深刻なケースが多くある。行政はじめ、他機関、他事業所との連携を意識しながら、利用者支援に関わるが多かった。

ア 計画相談状況

	新規契約件数	利用計画作成	モニタリング
H24年度	61	25	14
H25年度	55	100	160
H26年度	31	108	223

Ⅶ 名古屋盲人情報文化センター

視覚障害者情報提供施設 『名古屋盲人情報文化センター』

1 1月後半より1 2月に衆議院選挙、2月には愛知県知事選挙、平成27年度4月統一地方選挙と立て続けに選挙広報等作成に追われたが、その分を含め今期の収支差額をプラスで終わることができた。懸案だったトイレ改修工事を行い、利用者、ボランティアの方々にとって少しでも利用しやすい施設となった。また2年に一度の第11回用具展開催に多数の参加をいただき好評であった。今後は新製品の紹介など生活支援のため毎年開催とする。

関係機関への日常生活用具や補装具の説明会を複数回開催した。利用方法等を理解いただき、関係機関より利用者へ周知されるよう今後も広報を継続していく。

1. 職員・ボランティア等

	職員		ボランティア			
	職員総数	内・視覚障がい者	音訳関係	点訳関係	その他	合計
H24年度	20	7	151	120	34	305
H25年度	22	6	140	121	59	320
H26年度	20	5	134	119	56	309

	ご寄付			
	個人	団体	～10万円	10万円～
H24年度	54	7	57	4
H25年度	46	5	47	4
H26年度	40	3	42	1

2. 図書館事業部

今年度は過去2年間の顧客満足度調査で得られた結果の中でも、特に貸出の基本サービスに関わる部分について貸出タイトル制限の緩和等、具体的な施策に取り組んだ。併せて始動から2年経過した貸出システムの精度向上のため、書庫・蔵書データの整理にも着手し、27年度曝書を行う準備を進めた。

新規・既存の読者の読書環境向上の一助とするため、図書館利用ガイドの配布、読者交流会・サピエ図書館豆知識講座などを企画し実施した。

(1) 貸出タイトル制限の緩和と生きた書棚のための蔵書管理

25年度に実施した顧客満足度調査の際、「1度に借りられる図書数を増やしてほしい」という意見が多く寄せられた。これを受け、今年度4月より1度に貸出できるタイトル数を3から6タイトルに増やした。他施設からの借入図書のデータの

保存や図書の装丁の再利用等、作業工程の効率化を図った。これによりタイトル制限の緩和によって作業量が増加したが図書提供にロスを生じさせることなく貸出業務を行えた。結果、予約待ちを減らすことに繋がり、週末、夏冬の長期休館時にも途切れることなく読者に図書を届けることができた。

また書庫にある図書とイントラデータとの照合作業に着手し、現状把握をすることで27年度に曝書を実施できるところまで整理を進められた。

(2) 地域における利用者との橋渡しの強化

25年度に着手した地域の音訳グループを紹介するホームページ「音ナビ東海」が完成(愛知県下30グループを紹介)、センター機関誌みちしお2014年8月号にて告知を行った。

音ナビ東海 <http://onnavi.niccb.net/>

(3) 利用者増加のための図書館キャンペーンの実施

① 図書館利用ガイドの配布

当センターでの図書館サービスを簡略にまとめた「図書館利用ガイド」を作成し、4月より新規利用者等に配布を行っている。墨字12件、音楽CD24件、点字1件を配布した。利用ガイドを作成したことで職員の説明の指針ともなり新規読者に対し、職員ごとに説明にむらが出るという問題解消にもつながった。利用ガイドの内容は年に1度見直しを行う予定。

② 読者交流会の実施

読書好き集まれ! 交流会「本のトビラ」と銘打って9月8日(月)10時30分～12時にボランティアと利用者の読書交流会を実施。事前にそれぞれお勧め本を出し、当日は小グループに分かれ、お勧め本を紹介し合うという初めての試みを行った。後日、参加者にはお勧め本をまとめたダイジー版目録を参加特典として進呈した。

後日、参加者の一部が有志で同じ形式の小規模交流会を実施する等、読者・ボランティア共に好評を得たので27年度も実施する予定。

【参加者】

利用者：28名(当日参加10名・お勧め本紹介のみ18名)

ボランティア：28名(当日参加20名・お勧め本紹介のみ8名)

職員：10名(当日参加2名・お勧め本紹介のみ8名)

③ 「〈サピエ図書館〉豆知識講座」の実施

視覚障害者総合情報ネットワーク「サピエ」のメインコンテンツである「サピエ図書館」には全国の視覚障害者情報提供施設等で制作された点字・録音図書データ、書誌情報が集積されている。ただ、情報量が膨大であり、検索項目も多く複雑なため、個人会員となっても活用しきれていないケースが少なくない。そこで用語説明や検索のコツなどを紹介する入門的な講習を企画、実施した。個

人会員の有無に関わらず参加者を募りサピエ図書館を直接・間接的に活用することで読書の幅が広がることを伝えることができた。

日時：1月18日(日)13時30分～15時

参加者：10名（内ボランティア1・サピエ個人会員6）

内容：サピエの歴史、会員登録方法、メニューの説明、ジャンル・詳細検索のコツ他

(4) プライベート資料の制作、対面読書・代筆・墨訳サービス・プレクストーク個人講習の実施

- ・各種資料・教養講座等のテキスト・家電等の取り扱い説明書等、個人持ち込みの「プライベート制作物」の速やかな点訳・音訳を行うよう意を用いた。
- ・視覚障害者の情報保障の一助として当施設内にてマンツーマン形式の対面読書・代筆・墨訳サービス、プレクストークの個人講習を引き続き実施し、内容の充実を図った。

(5) 点訳者・音訳者の育成と研修

利用者へのサービス提供を良質かつ安定的に実施していくため、ボランティア向けに点訳・音訳関連の各種研修会・会議を多様に開催した。

音訳では新規の音訳者養成と、「みよまい会」を支えるシーンボイスガイドボランティアの養成を同時に9月より開始した（音訳養成：11名・シーンボイスガイド：8名）。3月末までに音訳養成講習11名、シーンボイスガイド講習7名が終了し、内、音訳養成は11名、シーンボイスガイドは4名が本格的に活動を開始する。

点訳では25年度受講者11名のフォローアップ講習を4月より実施し3月末で終了した。次年度から11名全員が点訳活動を開始する。

テキストデイジーでは「テキスト化サービス」の実証検証等、22件のテキスト化を実施。大学院生の研究資料、俳句の歳時記、家電の取扱説明書等を手掛けた。蔵書としてテキストデイジー図書1タイトルも完成した。

①蔵書

	点字図書		録音図書			
			テープ図書		CD図書	
	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
H24年度	9,151	31,314	7,346	41,792	6,975	6,977
H25年度	7,481	28,078	5,289	32,090	7,530	7,676
H26年度	9,574	33,606	5,026	31,411	8,227	9,363

②新規製作図書

ア. 蔵書

	点字図書		CD図書
	タイトル数(内リクエスト)	冊数	タイトル数(内リクエスト)
H24年度	215 (9)	1,084	191 (38)
H25年度	283 (7)	1,007	208 (48)
H26年度	285 (15)	1,153	215 (70)

イ. 雑誌

	点字		録音(テープ)		録音(CD)	
	月刊	隔月	月刊	隔月	月刊	隔月
H24年度	2タイトル	—	—	—	84タイトル	18タイトル
H25年度	2タイトル	—	—	—	72タイトル	18タイトル
H26年度	2タイトル	—	—	—	72タイトル	18タイトル

ウ. プライベート

	点字図書		CD図書
	タイトル数	冊数	タイトル数
H24年度	73	94	11
H25年度	90	125	10
H26年度	76	95	13

エ. サピエデータアップ状況

	点字データ		デジータデータ	
	アップタイトル数	アップ巻数	アップタイトル数	アップ時間
H24年度	391	1,512	812	6,786時間38分
H25年度	415	1,651	285	2,391時間38分
H26年度	375	1,487	273	2,287時間37分

③ボランティア養成

ア. 点訳ボランティア

	点訳者養成	フォローアップ講習	英語点訳
H24年度	—	1講座21回 延べ294名	1講座23回 延べ161名
H25年度	1講座16回 延べ212名	—	1講座23回 延べ138名
H26年度	—	1講座41回 延べ364名	1講座21回 延べ126名

イ. 音訳ボランティア

	音訳者養成講習	音訳技術 フォローアップ講習	校正者 養成講習 (フォローアップ)	プリントモニター 養成講習
H24年度	22回 244名	10回 68名	1回 21名	—
H25年度	22回 280名	7回 60名	1回 6名	—
H26年度	22回 231名	6回 73名	1回 4名	5回 25名

	音訳学習会	各種専門講習	ボランティア向け プレストーク操作講習
H24年度	7回 272名	30回 646名	6回 39名
H25年度	6回 215名	31回 650名	5回 31名
H26年度	6回 224名	31回 675名	7回 50名

④貸出

ア. 登録者

	個人 (内・サピエ)	団体
H24年度	2,319 (410)	473
H25年度	2,287 (629)	610
H26年度	2,420 (711)	590

イ. 利用者

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者
H24年度	526	4,697	321	3,987	1,040	32,376
H25年度	554	4,750	282	2,561	1,046	28,116
H26年度	464	3,898	270	1,804	1,028	31,421

ウ. 資料貸出

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
H24年度	4,697	8,400	3,987	15,113	32,376	32,420
H25年度	4,762	7,627	3,965	14,978	27,851	27,919
H26年度	3,898	7,306	1,804	7,766	31,421	31,488

エ. オンラインリクエスト

	リクエスト送信 数 (施設)	リクエスト送信 数 (個人借受)	リクエスト送信 数	リクエスト受信 数
H24年度	2,663	3,610	6,273	6,251
H25年度	1,668	3,914	5,582	5,468
H26年度	1,529	2,434	3,963	5,459

オ. コンテンツ利用状況集計(点字データ)

	ダウン タイトル数	ダウン 巻数	ダウン 実利用者	ダウン 延べ利用者
H24年度	13,409	54,244	215	25,330
H25年度	12,661	49,491	222	25,077
H26年度	16,329	66,904	198	26,179

カ. コンテンツ利用状況集計(デিজィーデータ)

	再生 タイト ル数	再生 時間	再生 実利用 者	再生 延べ利 用者	ダウン タイト ル数	ダウン 時間	ダウン 実利用 者	ダウン 延べ利 用者
H24 年度	2,542	2,453 時間 8分	31	6,225	16,536	133,534 時間 21分	274	76,005
H25 年度	6,242	7,071 時間 13分	122	21,458	17,802	140,992 時間 14分	331	93,087
H26 年度	11,288	10,067 時間 27分	148	35,876	20,161	158,678 時間 14分	358	116,510

キ. デিজィーオンライン

	A会員		B会員		合計	
	実利用者 数	登録タイ トル数	実利用者 数	登録タイ トル数	実利用者 数	登録タイ トル数
H24年度	1	4	0	0	1	4
H25年度	2	12	0	0	2	12
H26年度	2	2	0	0	2	2

⑤情報提供

	ホームページ 訪問者数	テレホン サービス	電話ナビ (中日春秋)	新聞 点訳	バリアフリー 映画会	メール マガジン
H24年度	7,521件	907件	終了	29名	6回 266名	485件
H25年度	8,517件	786件	終了	31名	6回 264名	403件
H26年度	12,700件	836件	終了	29名	5回 263名	185件

※メールマガジン 今年よりみちしおメール版を除く その他イオンや松坂屋は中止している

	点字出力 サービス	対面読書 サービス	代筆・墨訳 サービス	利用者向け フレクストーク 個人講習	利用者向け フレクストーク 操作体験会
H24年度	11,430枚	18件	20件	6回 6名 (5名)	5回 34名
H25年度	8,243枚	13件	9件	13回 13名(9名)	7回 40名
H26年度	40,357枚	15件	6件	9回 9名 (8名)	—

カッコ内実人数

3. サービス事業部

(1) 社会参加・活動支援

引き続き点字触読定期学習会を毎週1回、社会生活力を高め、生活を豊かにするための情報提供・学習の場である、「MAJ講座」を月2回程度開催した。昨年度に比べ回数・参加人数とも2.5倍と、MAJ(みんな あつまれ じょうぶんへ)の名の通り、センターへの集客イベントとしての役割、利用者への情報提供・レクリエーションの場としての役割を果たした。

また、継続して相談支援を実施するとともに、中途失明者緊急生活訓練事業(補助事業)において点字学習以外に「料理・お菓子教室」、「ぴあカウンセリング講座」を実施した。

(2) 用具斡旋販売事業

視覚障害者の毎日の生活が豊かで便利になるような新商品を毎月1つ開拓・紹介を積極的に行った。利用者へ補装具の制度・用具商品説明を丁寧にわかりやすく行うとともに、利用者の居住地域に用具を紹介・説明できる社会資源を増やすことを目的として、関係機関向けの用具・図書館サービス説明会を開催し、広く周知に努めた。

訪問販売では、これまでの盲学校、光和寮などの法人内施設や名古屋市総合リハビリテーションセンター等の関連施設に加え、地域の視覚障害者サークルや患者団体のイベントへ出かけ、当事者への用具の販売・情報提供を行った。

(3) IT訓練支援

引き続き個人講習やIT活用の相談に積極的に応じるとともに、スマートフォンについての情報発信・体験会活動にも取り組んだ。就労支援として、障害者職業能力開発校の委託訓練に取り組むとともに、その他の外部団体(職業センター、日盲

社協、名古屋リハセン、愛視援、名視協、NPO タートル) と連携して当事者相談、セミナー・研修会での発表などに取り組んだ。

(4) 地域支援

引き続き小中学校等の福祉実践教室をはじめ、ガイド・点字体験、施設見学などの対応を行うとともに、社会福祉協議会等の関係機関が開催する関連講習会等に職員・ボランティアを派遣し、地域の視覚障害者に対する啓蒙活動を行った。

(1) 社会参加・活動支援

①相談支援

	相談支援		合 計
	継続支援(件)	新規支援 (件)	
H24 年度	91	134	225 件 (実人数 120 人)
H25 年度	93	99	192 件 (実人数 100 人)
H26 年度	116	104	220 件 (実人数 112 人)

	生活	コ ミュ ニ ケー ション	就 労	学 業	ピ ア カ	家 族	ロー ビ ン グ ジ ョ ン	移 動	そ の 他	計 (件)
H24 年度	65	16	26	5	93	9	2	9	32	257
H25 年度	30	33	26	11	79	3	4	4	30	220
H26 年度	60	15	25	5	64	18	1	29	36	253

*相談内容によって複数の項目でカウント

②中途失明者緊急生活訓練事業

	点字触読指導				料理・お菓子教室	
	回数	人数	うち新規	自主学习	延べ人数	講座数
H24 年度	46	19	5	12 名	71 名	12
H25 年度	44	17	4	10 名	56 名	12
H26 年度	44	18	5	20 名	65 名	12

(2) ガイドヘルパー養成講習会

	ガイドヘルパー養成			ガイドボランティア指導		
	講座数	延回数	受講者数	講座数	延回数	受講者数
H24 年度	2	10	56	3	3	14
H25 年度	2	10	34	休止	休止	休止
H26 年度	休止	休止	休止	休止	休止	休止

(3) IT訓練支援

	相談 (延人数)	リモートサポート	個人指導 (延べ人数)	集団指導 (延べ人数)
H24年度	781	11	560	210
H25年度	761	サービス終了	389	175
H26年度	715	サービス終了	215	192

(4) 地域支援

	講師派遣等			見学対応		
	福祉実践	講義	計	小中高等学校	その他施設	計
H24年度	8件	16件	24件	1件	18件	19件 129名
H25年度	3件	20件	23件	1件	10件	11件 82名
H26年度	6件	19件	25件	3件	14件	17件 145名

(5) MAJ (みんなあつまれ情文へ) 講習

	回数	延べ人数
H24年度	10回	72名
H25年度	10回	71名
H26年度	25回	176名

(6) 用具サービス

	読書支援機器			
	ブックストア(録音・再生)PTR2	ブックストア(再生専用)PTN1/PTN2	拡大読書器	小型ブックストアPTP1・リンクポケット
H24年度	42	61	55	65
H25年度	36	52	49	50
H26年度	34	54	62	52

	歩行・情報支援機器			
	白杖	ソフト1位	ソフト2位	ソフト3位
H24年度	488	PC-Talker(35)	ネットリーダー(21)	MyMailⅢ(20)
H25年度	434	PC-Talker(49)	MyMailⅢ(31)	ネットリーダー(22)
H26年度	407	PC-Talker(36)	ネットリーダー(16)	MyBookⅢ(16)

4. 点字出版事業部

2年目を迎えた「声の広報なごや区版」においては、引き続き各区ボランティアへの技術支援を行い、滞りなく毎月発行することができた。

例年の課題であった出版物発行における活動部隊（ワーキンググループ）においては引き続き着手できない計画もあったため、次年度はより具体的なテーマに絞ることとした。

点字教科書を年間を通じ2教科を受け持ち、厳しい作業期間ではあったが、授業に間に合わせることもできた。

12月の解散総選挙では日盲委選挙情報支援プロジェクトに参加し、こちらも厳しい納期間ではあったが滞りなく発送へところぎつけた。

墨字の一般書籍（2タイトル）の口絵・表紙カバーへの触図製作依頼を受けもったが、「やまびこ」や「らしんばん」で培った触図技術を晴眼者へ広く広報する機会を今後も増やしていきたい。

(1) 点字出版物製作

①オリジナル出版

	月刊誌 やまびこ	その他 出版物 (点字版)	その他 出版物 (録音版)	グリーティ ングカー ド	年賀状 点図シ ール	一筆箋	エコ バッグ	ポチ袋
H24年 度	1,191 冊	8タイトル	427タイトル	114 枚	1,411 枚	117冊	33枚	
H25年 度	1,105 冊	3タイトル	45タイトル	126 枚	1,395 枚	100冊	4枚	85枚
H26年 度	1,023 冊	10タイトル	0タイトル	98枚	1,395 枚	68冊		355枚

②受注製作物（定期刊行物・点字教科書）

	名古屋市（広報な ごや・市会だより）	他市町村 (広報とよた)	生活情報誌 らしんばん	点字教科書
H24年度	印刷 240,337枚	印刷 13,603枚	印刷 80,959枚	生徒0名 0科目
H25年度	印刷 214,323枚	印刷 9,891枚	印刷 81,601枚	生徒0名 0科目
H26年度	印刷 194,435枚	印刷 10,880枚	印刷 79,212枚	生徒1名 2科目

③その他受注製作物

	名古屋市はじめ市町村 (行政資料等)	施設・団体 (資料等)	一般企業 (資料・メニュー等)	選挙情報 (名簿・投票用紙・公報)	公共料金明細 (電気・ガス・水道)	点字 名刺
H24年度	15件 67,060枚	44件 31,494枚	27件 157,288枚	26件 237,147枚	印刷 7,102枚	167名 21,629枚
H25年度	16件 77,455枚	31件 43,901枚	15件 167,327枚	35件 265,958枚	印刷 6,944枚	143名 22,548枚
H26年度	20件 67,215枚	56件 144,233枚	16件 59,983枚	31件 218,046枚	印刷 6,940枚	182名 25,779枚

(2) 点字技術支援 (点字サイン・UV加工等)

	点字案内板・ プレート	鉄道駅構内触 図案内板	鉄道駅 手すり案内板	鉄道駅 運賃表	タクシー 車内シール	UV加工
H24年度	3,265枚	6駅10枚	14駅279本	3駅3冊	424枚	62点
H25年度	4,480枚	8駅12枚	29駅284本	132駅167冊	107枚	186点
H26年度	4,916枚	12駅28枚	106本	45駅46冊	2,160枚	147点

5. 利用者及び地域住民との交流事業

10月26日(日)に開催した港区ふれあい広場には職員が実行委員として参加し準備を進めるとともに、当日はともの会の協力も得て点字体験・録音体験・バザーを実施した。

3月19日(木)は、バス交流会を実施し、岐阜県みのかも文化の森にて、森の触察・五平餅・まが玉・らくがん作りなど体験型プログラムを楽しんだ。(73名)

6. 関係団体との連携事業

全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協)、日本盲人社会福祉施設協議会、中部ブロック点字図書館等連絡協議会(中部ブロック)、全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会の会員として、委員を派遣するとともに会議、研修会などに積極的に参加・協力をした。特に、中部ブロックは、事務局として会の運営を行った。

名古屋市視覚障害者協会(名視協)、名古屋盲学校、名古屋市総合リハビリテーションセンター、愛知障害者職業能力開発校、愛知視覚障害者援護促進協会、東海音訳学習会など中部地区の関係団体と密接に連携し、視覚障害者の文化・福祉向上に貢献した。

VIII 瀬古マザー園 拠点

特別養護老人ホーム	『瀬古第一マザー園』
盲養護老人ホーム	『瀬古第二マザー園』
短期入所生活介護事業	『瀬古マザー園短期入所生活介護事業所』
高齢者デイサービス	『瀬古マザー園デイサービスセンター』
〃	『矢田マザー園デイサービスセンター』
居宅介護支援事業	『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所』
ふれあいセンター	『瀬古平成会館』

極めて厳しい経営環境の下で、経営基盤安定化のため収入増加への取り組みを推進してきた結果、「認知症専門ケア加算」や「サービス提供体制加算Ⅰ」の取得など一定の成果をみたものの、収入の大幅な改善までには至らなかった。

今般、(独)福祉医療機構に経営分析をお願いしたところ、全国的にマザー園と同規模の事業所と比較して、特養、ショートステイ、デイサービスのいずれも利用率が平均以下との指摘がなされた。この分析結果を検証中であるが、各事業での利用率の引上げ対策が急務となっている。盲養護については、年間を通じて安定した利用率を維持するとともに、利用者一人ひとりのニーズを把握し様々な社会資源を活用した個別支援の提供に努め、充実した生活を送る支援につなげることができた。

感染症に対しては、過去2年の経験から従来の予防対策を抜本的に見直し、感染源を外部から持ち込ませないきめ細かな対策が功を奏し、冬季の入院による空床が激減するなど稼働率が大幅に改善された。

人材育成については、弁護士を講師に迎え「プライバシー保護に関する研修」を実施するなど、職場内研修の充実に力を入れるとともに外部研修へも職員を積極的に派遣した。

また、おむつゼロへの取り組みも2年間継続して取り組んできた結果、施設介護の質的転換の必要性への認識が徐々に職員の中に浸透してきた。

施設整備の面では、非常用放送設備が故障したため、9月に緊急更新工事を実施した。また平成会館2階空調設備の更新工事を当初の計画通り10月に実施するとともに、老朽化したエレベーター2基の改修工事を10月から11月にかけて行った。

園内の環境整備についても、樹木の定期剪定や四季折々の植栽などほぼ年間計画に沿って実施することができた。

1 特別養護老人ホーム 『瀬古第一マザー園』

利用率は前年度比で+3.4%、年間では94.0%と前年度、前々年度に比べ大幅に改善した。上半期は前年度冬季の利用率低下の影響が長引き低調であったものの、下半期はここ数年入院者が急増した冬季の対策を大幅に見直し、利用者、職員、来園者の体調管理を徹底したこともあり、利用率95%前後を維持し堅調に推移した。

サービス面では介護力向上講座への取り組みを中心に、根拠やデータに基づいた評価、各サービスのレベルアップと定着に努めた。取り組みに対する意識も浸透しつつあり、徐々にではあるが具体的な成果があらわれる事例も増えてきている。今後も長期的な視野に立って継続的に取り組み、サービス改善に繋げていく。また、次期介護報酬改定では基本報酬が概ね-5%とよりいっそう厳しい環境になるため、利用率向上とともに、更なる加算算定や経費節減を進め、経営基盤の安定化を図っていく。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 24 年度	16	17	58	60
平成 25 年度	21	22	57	
平成 26 年度	19	16	60	

イ 要介護度状況（年度末時点）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計	平均 要介護度
H24 年度	1	6	14	24	13	58	3.7
H25 年度	4	8	22	15	8	57	3.3
H26 年度	2	11	23	20	8	60	3.2

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率(%)
60	H24 年度	365	20,157	55.2	92.0
	H25 年度	365	19,842	54.4	90.6
	H26 年度	365	20,593	56.4	94.0

2 盲養護老人ホーム 『瀬古第二マザー園』

本年度は年間を通じて月初在籍者で定員を維持。前年度と同程度の入退院入退所はあったものの安定した利用率を維持することができた。

利用者支援においては、「利用者一人ひとりのニーズや状態に応じた支援の実践」を目指し取り組みを進めてきた。健康の維持や介護予防として、各種体操の継続、散歩や歩行訓練、介護予防レクレーションなどを取り入れ、利用者にも定着し定例化することができている。また、個別支援計画や支援内容の充実、同行援護や介護保険等の活用については一定の整理を進めることができた。

次年度は本年度改善した内容をさらに発展させ、サービスの合理化・適正化、支援内容の専門性向上、支援計画の充実を図っていく。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成24年度	10	10	50	50
平成25年度	5	5	50	
平成26年度	6	6	50	

イ 施設利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍者	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	—
入所	1	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	6
退所	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	6

ウ 視覚障害等級別状況

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	非該当	計
平成24年度	34	12	3	0	1	0	0	50
平成25年度	35	10	3	0	1	0	1	50
平成26年度	35	13	2	0	0	0	0	50

エ 要介護度状況（年度末時点）

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H24年度	33	0	1	5	5	3	1	0	50
H25年度	41	1	1	4	3	0	0	0	50
H26年度	42	1	1	3	3	0	0	0	50

3 短期入所生活介護事業 『瀬古マザー園短期入所生活介護事業所』

本年度の利用率は79.8%で前年度比+8.9%であった。上半期にご家族の緊急入院に伴う長期利用者を受け入れたことが利用率UPの主な要因となった。一方、下半期は施設入所されるケースが相次ぎ、実利用者数・利用率ともに減少した。

利用率向上を図るため、利用要件の緩和や空床ベッドの活用、瀬古・矢田デイサービス利用者へのショートステイ利用の働きかけなどを継続。今後は利用しやすい環境の整備や広報活動を強化し、より多くの方に利用していただけるよう取り組んでいく。

ア 利用登録状況

	登録者	解除者	3月実利用者※	定員
平成24年度	8	4	10	4/日
平成25年度	17	13	12	
平成26年度	11	9	8	

※利用実績のない登録者がある場合、総登録者と一致しない場合がある。

イ 要介護度状況（年度末時点）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H24年度	0	0	1	4	2	2	1	10
H25年度	0	0	2	4	2	2	2	12
H26年度	0	0	0	4	2	2	0	8

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率(%)
4	H24年度	365	1,150	3.2	78.8
	H25年度	365	1,035	2.8	70.9
	H26年度	365	1,165	3.2	79.8

4 高齢者デイサービス

(1) 『瀬古マザー園デイサービスセンター』

年間延べ利用者数 5,706 名（前年度 5,739 名）、1日平均利用者数 18.5 名（前年度 18.7 名）となった。

上半期は前年度に対し延べ利用者数が 102%と増加していたが、下半期にインフルエンザの流行、介護度の高い方の施設入所等があり利用者数が減少してしまった。また、上半期は介護度3以上の利用者数が多かったが、下半期に入り減少が見られ、収入面にも影響してしまった。

次年度は、本年度にも取り組んだ認知症ケアの確立、集団ケアから個別ケアの実現、利用者を選んでもらえるデイサービスを目指し新規利用者確保に向けて取り組んでいく。

ア 利用登録状況

	登録者	解除者	3月実利用者※	定員
平成24年度	4	6	47	30/日
平成25年度	7	7	48	
平成26年度	9	4	48	

※利用実績のない登録者がある場合、総登録者と一致しない場合がある。

イ 要介護度状況（年度末時点）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H24年度	1	6	11	15	9	5	0	47
H25年度	2	8	16	12	6	3	1	48
H26年度	3	5	12	16	10	1	1	48

ウ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率(%)
30	H24年度	308	5,631	18.3	60.9
	H25年度	307	5,739	18.7	62.2
	H26年度	308	5,706	18.5	61.7

(2) 『矢田マザー園デイサービスセンター』

年間延べ利用者数は6,238名(前年度6,445名)、1日平均利用者数20.3名(前年度21.0名)で前年比96.8%と利用者数で-3.2%、収入では重度者の減少もあり4.5%の落ち込みとなった。

今後は今以上にレクリエーションに力を入れ、「明るく活動的なデイサービス」「視覚障害者が安心して過ごせるデイサービス」となるよう、職員教育を行うとともに、地域の社会資源として根付くための活動も積極的に行い、利用率向上に繋げていく。

ア 利用登録状況

	登録者	解除者	3月実利用者※	定員
平成24年度	36	30	67	30/日
平成25年度	24	27	64	
平成26年度	12	10	62	

※利用実績のない登録者がある場合、総登録者と一致しない場合がある。

イ 要介護度状況 (年度末時点)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H24年度	5	12	13	18	11	6	2	67
H25年度	4	13	13	18	8	5	3	64
H26年度	2	10	17	23	2	5	3	62

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率(%)
30	H24年度	308	6,401	20.8	69.3
	H25年度	307	6,445	21.0	70.0
	H26年度	308	6,238	20.3	67.5

5 居宅介護支援事業 『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所』

ケアプラン作成件数は888件（前年度753件）で前年度比118%とアップ、件数内訳は要支援40%、要介護60%となっている。今後は国の施策でも中重度者への取り組みが強化されていくことから、要介護者の受け入れを進めていく必要がある。

同事業所内のデイサービスへの紹介率は84%ほど、マザー園ショートステイに関しては3月度の紹介率は100%となっている。平成27年度から特定事業所集中減算に係る算定要件基準の見直しが行われ、現在は90%を超える要件であったものが80%を超える要件に変更となる。このことから居宅介護支援事業所として特定事業所集中減算の回避は難しいと思われる。

介護支援専門員の能力アップや情報収集を積極的に行ない、名古屋市介護サービス事業者連絡研究会、守山居宅連絡会等を始め、医療機関への研修にも参加し、マザー園内の事業所や各いきいき支援センターとの連携にも力を入れてきた。

次年度については、国の施策として重度者（介護度が高く、医療依存度の高い利用者）が在宅生活をされる機会が増えると考えられ、今まで以上に医療分野との連携が重要になり、一方で地域との連携も必要となるため、両者のより一層の強化に努めていく。また、これまで以上に地域との連携を深めるため、社会福祉協議会や地域住民と関わる機会を増やすことで、新しい利用者の獲得に繋げていく活動を進めていく。

ア ケアプラン作成件数

	支援	介護	合計（件）
H24年度	73	480	553
H25年度	204	544	748
H26年度	268	620	888

6 ふれあいセンター 『瀬古平成会館』

平成26年度においては2階の空調設備（電気エアコン）の更新と1階会議室の空調設備の更新を行い、会館の空調設備更新は完了した。

地域でのコミュニティセンターとしての役割も担い年々施設利用者が増加し、前年対比約15%の収入増となった。引き続き、会館の維持管理・運営について利用基準の明確な運用に心がけ公益事業としての役割を果たしていく。

ア 施設利用状況

	延べ利用団体数	延べ利用者数	実利用団体数
H24年度	232	4,431	140
H25年度	456	6,307	141
H26年度	348	8,378	134

7 ボランティア受入れ状況

学校関係

団体名	1回あたり 参加人数	活動日	活動内容	年間延 活動人数
守山西中学校	132名	8月下旬	入所者・利用者とのふれあい ジャズアンサンブル披露	132名
守西保育園	20名	6、10月	歌の披露、利用者とのふれあい	41名
高等学校（夏季）	1名	8月	夏期高校生ボラ活動	12名

団体関係

団体名	1回あたり 参加人数	活動日	活動内容	年間延 活動人数
グループあすなろ	4～6名	毎週金曜	盲養護入所者への朗読	約142名
瀬古小PTAママさんコーラス	12名	12月	ハンドベル・合唱の披露	11名
愛知県理容生活衛生同 業組合（守山支部）	5～6名	毎月第一水曜	理髪奉仕（有償）	55名
点字ボランティア	約3名	毎月1～2回	毎月の行事予定・献立の点訳	48名

個人

項目	活動日	活動内容	年間延活動人数
書道指導	月1回	書道クラブ（瀬古入所者）	12名
書道指導	月1回	書道教室（矢田利用者）	12名
俳句指導	月1回	俳句クラブ	12名
音楽指導	月2回	音楽クラブ	21名
理美容	特：月1、養護：月2	特養・養護理美容奉仕（有償）	33名
陶芸指導	月1回	陶芸クラブ	19名
時計店	月1回	入所者時計修理	12名
音楽療法	月2回	特養入所者・デイ利用者へ音楽療法（有償）	23名
行事付き添い	随時	入所者外出行事付き添い	37名
裁縫	随時	養護・特養の繕い物作業	38名
個別訪問話説	随時	個別訪問、話し相手等、入所者対応	12名
盆踊り指導	4月～8月	ダンスクラブ（1回当たり約4～5名）	34名
演奏会	月1～3回	瀬古デイ・矢田デイ・養護	11名
ふれあい祭	11月	地域交流会にて	52名

ボランティア総数（延べ人数）	約769名
年間1日あたり人数	約2.1名